

講義要項

SYLLABUS 2020年

学校法人国際科学技術学院

前橋東洋医学専門学校

履修科目一覧

柔道整復科 令和2年度

学年	番号	分野	科目	担当	単位	区分
1年	1-01	基礎	保健体育	塚田 純也	2	後期
	1-02	基礎	経営経済学	岩倉 伸	4	通年
	1-03	基礎	生物	宮崎 捷二	4	通年
	1-04	基礎	英語	関端 優子	4	通年
	1-05	専門基礎	解剖学Ⅰ	田口 大輔	2	前期
	1-06	専門基礎	解剖学Ⅱ	田口 大輔	2	後期
	1-07	専門基礎	生理学Ⅰ	田口 大輔	2	後期
	1-08	専門基礎	生理学Ⅱ	伊藤 春雄	2	前期
	1-09	専門基礎	運動学	松房 利憲	1	前期
	1-10	専門基礎	柔道Ⅰ	五月女欣也	1	前期
	1-11	専門	基礎柔道整復学Ⅰ	前川 民夫	2	通年
	1-12	専門	基礎柔道整復学Ⅱ	福田 ひとえ	2	通年
	1-13	専門	基礎柔道整復学Ⅲ(運動学)	松房 利憲	1	後期
	1-14	専門	基礎柔道整復学Ⅳ	長坂 愛	2	通年
	1-15	専門	基礎柔道整復学Ⅴ	福田 ひとえ	2	通年
	1-16	専門	柔道整復実技Ⅰ	高橋 知則	2	通年
	1-17	専門	柔道整復実技Ⅱ	横山 靖	2	通年
2年	2-01	専門基礎	解剖学Ⅲ	工藤 重治	2	通年
	2-02	専門基礎	生理学Ⅲ	静 毅人	2	通年
	2-03	専門基礎	病理学概論	伊藤 春雄	2	通年
	2-04	専門基礎	一般臨床医学Ⅰ	天野 出月	1	後期
	2-05	専門基礎	外科学概論	天野 出月	2	通年
	2-06	専門基礎	整形外科学	柳澤・薬師寺	2	通年
	2-07	専門基礎	衛生学	大原 正	1	前期
	2-08	専門基礎	公衆衛生学	大原 正	1	後期
	2-09	専門基礎	柔道Ⅱ	五月女欣也	1	前期
	2-10	専門	臨床柔道整復学Ⅰ	田代 裕	2	通年
	2-11	専門	臨床柔道整復学Ⅱ	田代 裕	2	通年
	2-12	専門	臨床柔道整復学Ⅲ	横山 靖	2	通年
	2-13	専門	臨床柔道整復学Ⅳ	前川 民夫	2	通年
	2-14	専門	臨床柔道整復学Ⅴ	岡田 郁子	2	通年
	2-15	専門	柔道整復実技Ⅲ	高橋 知則	2	通年
	2-16	専門	柔道整復実技Ⅳ	中澤 一紀	2	通年
	2-17	専門	各種療法	永井 よりか	2	後期
3年	3-01	専門基礎	高齢者・競技者の生理学	静 毅人	2	通年
	3-02	専門基礎	一般臨床医学Ⅱ	天野 出月	2	通年
	3-03	専門基礎	リハビリテーション医学	朝倉 智之	2	通年
	3-04	専門基礎	柔道整復術の適応	朝倉 智之	2	通年
	3-05	専門基礎	関係法規	田代 裕	2	通年
	3-06	専門基礎	医学史	永井 よりか	1	前期
	3-07	専門基礎	柔道Ⅲ	五月女欣也	2	通年
	3-08	専門	職業倫理と社会保障	前川 民夫	2	通年
	3-09	専門	臨床柔道整復学Ⅵ	福田 ひとえ	2	通年
	3-10	専門	臨床柔道整復学Ⅶ	岡田 郁子	2	通年
	3-11	専門	柔道整復術適応の臨床的判定	中澤 一紀	2	通年
	3-12	専門	柔道整復実技Ⅴ	横山 靖	2	通年
	3-13	専門	柔道整復実技Ⅵ	横山 靖	2	通年
	3-14	専門	柔道整復実技Ⅶ	岡田 郁子	2	通年
	3-15	専門	柔道整復実技Ⅷ	長坂 愛	2	前期
	3-16	専門	外傷予防	福田 ひとえ	2	通年
	3-17A	専門	臨床実習A	中澤 一紀	2	後期
3-17B	専門	臨床実習B	長坂 愛	後期		
3-17C	専門	臨床実習C	永井 よりか	前期		

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-01	保健体育	基礎	後期	1	2
講師名		実務経験・関連資格				
塚田 純也		実務経験：1975年（昭和50年）4月～2013年（平成25年）3月 群馬県公立高等学校教諭を歴任 資格：「高等学校保健体育教員免許専修」				
講義目的						
柔道の歴史や特性を理解し、基本動作、投げ技、固め技等の技術を習得し、約束練習や自由練習が安全に行えるようにするとともに、審判法を理解し簡易試合ができるようにする。また、柔道一級審査を合格するとともに、2年後には講道館柔道初段を取得できるようにする。						
講義内容						
柔道の歴史や特性及び礼法、審判法は教科書「学校柔道」を使用し理解を深める。実技では投げ技や固め技の練習をとおして安全面や相手を尊重し協力し合う態度や精神を身につけさせる。						
前期授業計画				後期授業計画		
1		1	オリエンテーション、アンケート（経験や健康面） 柔道の技（投げ技、固め技、当て身技）			
2		2	柔道の歴史（柔術と講道館柔道）、受け身、投げ技			
3		3	柔道の歴史（柔道の理念と礼法）受け身、投げ技			
4		4	審判法（技の評価）、受け身、投げ技、固め技			
5		5	審判法（反則内容）、受け身、投げ技、固め技			
6		6	受け身、投げ技（移動打込みと約束乱取）			
7		7	受け身、投げ技（移動打込みと約束乱取）			
8		8	受け身、投げ技（技の連絡変化と約束乱取）			
9		9	受け身、投げ技（技の連絡変化と約束乱取）			
10		10	受け身、投げ技（技の連絡変化と自由乱取）			
11		11	受け身、投げ技（技の連絡変化と自由乱取）			
12		12	受け身、簡易試合（投げ技に限定）			
13		13	受け身、簡易試合（投げ技に限定）			
14		14	受け身、投げ技（約束乱取と自由乱取）			
15		15	実技試験			
講義の進め方（指導方法）						
本校柔道場において柔道の歴史や理念を理解させるとともに、礼法を理解させその仕方を実践させる。柔道の実技では柔軟運動や受け身を習熟させ、基本動作から安全に留意し投げ技や固め技を習得させる。						
成績評価（方法・基準）						
柔道実技の礼法・受け身・投げ技（得意技）・約束乱取によって評価する。						
使用教材（教科書、教材等）						
教科書「学校柔道」改訂版 著作者 全国高等学校体育連盟柔道部 発行所 史資料出版協会						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-02	経営経済学	基礎	通年	1	4
講師名		実務経験・関連資格				
岩倉 伸						
講義目的						
<p>経営経済学を通じて、広い視野に立って現代の社会について主体的に考察させ理解を深めさせる。</p> <p>人間としての在り方・生き方についての自覚を育て、民主的・平和的な国家社会に有為な公民としての資質を養うとともに、接骨院を開業経営するための基礎知識を学習し将来に役立ててもらおう。また、文章の読解力及び作文力を向上させ、国家試験への対応力を高めてもらう。</p>						
講義内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・現代に生きる私たちの課題、現代の社会と人間としての在り方、生き方 ・現代の経済と倫理・経営の心構え、理念、方針・マーケティング理論・スタッフ雇用について・会計、帳簿、税金について・リスクマネジメント・新ビジネスモデル・グループ討論、模擬院経営 他 						
前期授業計画				後期授業計画		
1	挨拶、自己紹介 経営経済学年間講義プラン説明		1	前期の復習及び後期プラン説明		
2	現代社会と経済、及び接骨院シナリオ①～⑩		2	第4章 スタッフ雇用		
3	成功接骨院シナリオ⑥～⑩		3	第4章 スタッフ雇用		
4	目次から第1章		4	第5章 会計		
5	第1章 接骨院開業の現状と心構え		5	第5章 帳簿		
6	第1章 接骨院の経営理念、方針		6	第5章 決算		
7	第2章 開業スケジュール、事業計画書		7	第5章 税金		
8	第2章 各種行政手続き		8	第6章 リスクマネジメント		
9	第3章 マーケティング理論		9	第7章 新ビジネスモデル		
10	第3章 広告、広報		10	グループ授業① 模擬施術1		
11	グループ授業① リーダー決め他		11	グループ授業② 模擬施術2		
12	グループ授業② 共同作成		12	グループ授業③ 模擬施術3		
13	グループ授業③ 発表		13	グループ授業④ 模擬施術4		
14	前期まとめ		14	後期・通年のまとめ		
15	前期期末試験		15	後期期末試験		
講義の進め方（指導方法）						
<p>現代社会における経営経済を学ぶとともに、接骨院経営における倫理や手続きを理解してもらおう。</p> <p>テキスト著者の考えに固執しすぎることなく、使用教材についての客観的批評も含め、学生積極参加型講義にする。</p> <p>ノートを書く時間よりも発言する時間を多くするため、板書はテキストへのメモでも可。</p> <p>グループにわかれた模擬院経営なども実践し、具体的な問題解決法やスキルアップの習得を目指す。</p>						
成績評価（方法・基準）						
<p>出席点を評価。</p> <p>積極的取り組みやレポート等提出物も前後期試験に加味し総合的に判断。</p> <p>他学校基準に則る。</p>						
使用教材（教科書、教材等）						
教科書： 『成功する治療院経営バイブル』 高瀬智亨 著 同友館						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-03	生物	基礎	通年	1	4
講師名		実務経験・関連資格				
宮崎 捷二		群馬県立高校(1965～2003)。県立・私立・当専門学校など非常勤講師(2003～) 高校専修、高校二級、中学一級普通免許(理科)				
講義目的						
生命活動は、生体内で進行する化学反応の連続した状態である。物理的・化学的基礎知識を基にして、生命活動の仕組みが、これら自然の法則に従って営まれていることを把握する。						
講義内容						
下記の授業計画に示したとおり。						
前期授業計画				後期授業計画		
1	生物の特性、細胞		1	呼吸(外呼吸、内呼吸)		
2	細胞の構造と生体膜の性質		2	呼吸と ATP の生産		
3	物質代謝、エネルギー代謝		3	発酵・解糖		
4	細胞を構成する物質		4	染色体と遺伝子		
5	原子の構造と原子・分子		5	遺伝の法則		
6	原子量・分子量・同位体		6	ビトの性決定と伴性遺伝		
7	物質量(モルの概念)		7	自由交配(任意交配)		
8	質量、パーセント・モル濃度		8	集団遺伝1		
9	化学反応式と原子・分子		9	集団遺伝2		
10	化学反応1(質量の保存)		10	遺伝子の本体(核酸)		
11	化学反応2(気体の体積)		11	塩基配列と遺伝暗号		
12	酸化・還元(原子価の上昇・下降)		12	タンパク質合成		
13	酸・塩基・塩とpH		13	遺伝子突然変異		
14	期末試験対策		14	期末試験対策		
15	期末試験		15	期末試験		
講義の進め方(指導方法)						
生命活動にかかわる物質や、多くの生物現象を物理的・化学的に分析し、生命活動そのものを理解し、客観的に把握・認識できるように工夫する。						
成績評価(方法・基準)						
知識の正確さと、内容を正確に把握できるか。応用力など発展性がみられるか。						
使用教材(教科書、教材等)						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-04	英語	基礎	通年	1	4
講師名		実務経験・関連資格				
関端 優子		高等養護学校 7年 公立高校 2年 勤務				
講義目的						
国際化に対応した人材を育成するため、日常生活や医療現場で使われる機能的動作の表現などの基礎的な英語を理解し、習得する。						
講義内容						
教科書「運動・動作の英語表現」の中から基本的な英語や文を理解する。						
前期授業計画				後期授業計画		
1	自己紹介、授業の進め方の説明 (教科書) Waking up, Lying Position①		1	(教科書) Function Assessments①		
2	At the bathroom①、Lying Position②		2	Function Assessments②		
3	At the bathroom②、Sitting Position①		3	Diagnostic tests①		
4	Brushing up、Sitting Position②		4	Diagnostic tests②		
5	Getting dressed①、Standing Position①		5	関節可動域運動 首・頸		
6	Getting dressed②、Standing Position②		6	関節可動域運動 肩		
7	Toileting , Standing Position③		7	関節可動域運動 肩		
8	Eating , Passive ROM Exercise		8	関節可動域運動 肩		
9	Making tea , Muscle Test : Upper Body①		9	関節可動域運動 腕		
10	Transportation , Muscle Test : Upper Body②		10	関節可動域運動 手・指		
11	House keeping , Muscle Test : Upper Body③		11	関節可動域運動 胸腰部		
12	Recreation , Muscle Test : Upper Body④		12	関節可動域運動 骨盤・殿部		
13	Having a bath , Review (復習)		13	関節可動域運動 脚・膝		
14	中間試験		14	関節可動域運動 足		
15	見直し、(教科書) Function Assessments①		15	期末試験		
講義の進め方 (指導方法)						
ワークシートやフラッシュカード、ミニホワイトボード等を用いて、単語等の理解を確認しながら進める。						
成績評価 (方法・基準)						
授業態度、中間、期末試験						
使用教材 (教科書、教材等)						
教科書、ワークシート、フラッシュカード、CD、ラジカセ、ミニホワイトボード						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-05	解剖学 I	専門基礎	前期	1	2
講師名		実務経験・関連資格				
田口 大輔						
講義目的						
<p>ヒトの身体の構造（解剖学：Anatomy）、機能（Rhysiology）を理解することは、柔道整復師として臨床現場で外傷に対し施術する際に必要不可欠な知識である。本講義の目的は下記に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造における用語、細胞・組織、人体の初期発生について理解し、説明できる。 2. 運動系（骨格・筋・関節）について理解し、説明できる。 						
講義内容						
<p>解剖学（Anatomy）とは、人体の形態・構造を研究する学問であり医学・医療を学ぶ上での重要な基礎医学の一つです。解剖学は肉眼による観察を主とする肉眼解剖学と、顕微鏡を用いて組織の微細構造を観察する組織学に大別されます。解剖学 I では、人体構造を肉眼から顕微鏡レベルまで学びます。</p>						
前期授業計画				後期授業計画		
1	人体解剖学概論 1	1	オリエンテーション・前期の復習			
2	人体解剖学概論 2	2	筋学—総論 1—			
3	人体解剖学概論 3	3	筋学—総論 2—			
4	骨格系—総論：骨の構造—	4	筋学—各論：頭部—			
5	骨格系—総論：骨の連結—	5	筋学—各論：頸部—			
6	骨格系—各論：頭蓋 1—	6	筋学—各論：胸部—			
7	骨格系—各論：頭蓋 2—	7	筋学—各論：腹部—			
8	骨格系—各論：脊柱・胸郭—	8	筋学—各論：背部—			
9	骨格系—各論：上肢 1—	9	筋学—各論：上肢 1—			
10	骨格系—各論：上肢 2—	10	筋学—各論：上肢 2—			
11	骨格系—各論：下肢 1—	11	筋学—各論：下肢 1—			
12	骨格系—各論：下肢 2—	12	筋学—各論：下肢 2—			
13	骨学まとめ	13	筋学まとめ			
14	期末試験	14	期末試験			
15	骨学実習 1	15	筋学実習			
講義の進め方（指導方法）						
<p>教科書に沿ってスライドを使用して講義を行う。 また、必要に応じて自作の配布プリントを使用する。 ※上記の内容を中心に構成しますが、時間（時限）の配分は適宜調整しながら進行します。</p>						
成績評価（方法・基準）						
<p>定期試験の結果に加えて評価します。（90%） また、小テスト・授業に対する積極性などについても評価します。（10%）</p>						
使用教材・備考						
<p>学校協会指定教科書：解剖学（医歯薬出版） 次回の講義までに、該当する教科書の範囲を必ず読んで来てください。 また、授業開始時に前回の講義範囲の小テストを行うことがあります。</p>						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-06	解剖学Ⅱ	専門基礎	後期	1	2
講師名		実務経験・関連資格				
田口 大輔						
講義目的						
<p>ヒトの身体の構造（解剖学：Anatomy）、機能（Rhyiology）を理解することは、柔道整復師として臨床現場で外傷に対し施術する際に必要不可欠な知識である。本講義の目的は下記に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脈管系・内臓系・泌尿器系について理解し、説明できる。 2. 運動系の体表解剖について理解し、触知しながら説明できる。 						
講義内容						
<p>解剖学（Anatomy）とは、人体の形態・構造を研究する学問であり医学・医療を学ぶ上での重要な基礎医学の一つです。解剖学は肉眼による観察を主とする肉眼解剖学と、顕微鏡を用いて組織の微細構造を観察する組織学に大別されます。解剖学Ⅰでは、人体構造を肉眼から顕微鏡レベルまで学びます。</p>						
前期授業計画			後期授業計画			
1	オリエンテーション・体表解剖		1	オリエンテーション・前期の復習		
2	脈管系 —循環器（総論）—		2	内臓系 —十二指腸、小腸・他臓器との位置関係—		
3	脈管系 —心臓の構造—		3	内臓系 —大腸の構造と機能—		
4	脈管系 —心臓の内部構造—		4	内臓系 —肝臓の構造と機能—		
5	脈管系 —動脈1—		5	内臓系 —肝臓と胆嚢、胆路—		
6	脈管系 —動脈2—		6	内臓系 —呼吸器—		
7	脈管系 —動脈3—		7	内臓系 —呼吸器—		
8	脈管系 —静脈1—		8	内臓系 —呼吸器—		
9	脈管系 —静脈2—		9	内臓系 —呼吸器—		
10	脈管系 —リンパ系1—		10	内臓系 —呼吸器—		
11	脈管系 —リンパ系2—		11	内臓系 —泌尿器—		
12	内臓系 —口、口腔—		12	内臓系 —泌尿器—		
13	内臓系 —咽頭、喉頭—		13	内臓系 —泌尿器—		
14	内臓系 —食道、胃—		14	内臓系 —泌尿器—		
15	期末試験		15	期末試験		
講義の進め方（指導方法）		教科書に沿ってスライドを使用して講義を行う。				
<p>また、必要に応じて自作の配布プリントを使用する。</p> <p>※上記の内容を中心に構成しますが、時間（時限）の配分は適宜調整しながら進行します。</p>						
成績評価（方法・基準）						
<p>定期試験の結果に加えて評価します。（90%）</p> <p>また、小テスト・授業に対する積極性などについても評価します。（10%）</p>						
使用教材・備考		学校協会指定教科書：解剖学（医歯薬出版）				
<p>次回の講義までに、該当する教科書の範囲を必ず読んで来てください。</p> <p>また、授業開始時に前回の講義範囲の小テストを行うことがあります。</p>						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-07	生理学 I	専門基礎	後期	1	2
講師名		実務経験・関連資格				
田口 大輔						
講義目的						
<p>ヒトの身体の構造（解剖学）、機能（生理学）を理科することは、柔道整復師として臨床現場で外傷を施術することに必要不可欠な知識であることから、本講義は下記の目的とします。</p> <p>1. 生命を維持する機能(植物機能)に必要な循環、呼吸の機構について理解し、説明できる。</p>						
講義内容						
<p>生理学(Physiology)は、生命活動の動的機構の解析を目的とし、細胞や器官の機能解明と、これらの機能が統合された個体全体の生命現象の解明を目指す学問である。本講では人体機能を司る生命現象のしくみについて、生理学的な側面から理解することを目的とする。生体の恒常性の維持や基礎活動がどのように営まれているのか、各系統別に講義を展開する。循環、呼吸、血液の機構などについて概説する。</p>						
前期授業計画			後期授業計画			
1	オリエンテーション		1	血管の種類と機能		
2	生理学の基礎 1 生理学とはどんな学問か？		2	血圧		
3	生理学の基礎 2 ホメオスタシス		3	循環の調節		
4	生理学の基礎 3 細胞の構成要素と機能		4	特殊循環 1 (リンパ循環、冠循環)		
5	拡散、浸透、ろ過の仕組みと輸送メカニズム		5	特殊循環 2 (脳循環、肺循環、皮膚循環)		
6	血液の生理学の概説		6	呼吸生理の概説		
7	血液の機能		7	呼吸器の機能的構造		
8	免疫機能		8	換気の仕組み		
9	血液型と血液の凝固		9	ガス交換		
10	循環生理の概説		10	ヘモグロビンの機能		
11	心臓の基本的性質		11	呼吸の調節		
12	心電図		12	呼吸の異常		
13	ポンプとしての心臓		13	特殊環境下での呼吸		
14	期末試験		14	期末試験		
15	まとめ		15	まとめ		
講義の進め方 (指導方法)						
<p>教科書に沿ってスライドを使用して講義を行う。</p> <p>また、必要に応じて自作の配布プリントを使用する。</p> <p>※上記の内容を中心に構成しますが、時間(時限)の配分は適宜調整しながら進行します。</p>						
成績評価 (方法・基準)						
<p>定期試験の結果に加えて評価します。(90%)</p> <p>また、小テスト・授業に対する積極性などについても評価します。(10%)</p>						
使用教材・備考						
<p>教科書：生理学 (南江堂)</p> <p>次回の講義までに、該当する教科書の範囲を必ず読んで来てください。</p> <p>また、授業開始時に前回の講義範囲の小テストを行うことがあります。</p>						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-08	生理学Ⅱ	専門基礎	前期	1	2
講師名		実務経験・関連資格				
伊藤 春雄						
講義目的						
<p>人体の機能について構造に鑑みつつ知る。 ヒトがどのような機構で生命活動を営み、環境に適応しているのか、その全体像を理解することを目的とする。</p>						
講義内容						
<p>生理学Ⅱで講義する範囲は多岐に渡る。消化と吸収、栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄、内分泌系の機能、生殖、骨の生理学。これらの各システムを主要な器官にわけ、その機能を紹介するとともに、生理機能の破綻により生ずる疾患についても紹介する。</p>						
前期授業計画				後期授業計画		
1	消化と吸収の働き	1	内分泌腺、ホルモンの一般的性質			
2	消化管の機能と消化液	2	ホルモンの種類と作用			
3	消化器系の働き	3	視床下部、脳下垂体のホルモン			
4	三大栄養素の消化と吸収	4	甲状腺ホルモン、すい臓のホルモン			
5	代謝とは	5	副腎のホルモン			
6	生体の構成成分と栄養素	6	生殖腺のホルモン			
7	エネルギー代謝	7	性染色体と性分化			
8	栄養素の代謝	8	精子形成、勃起と射精			
9	体温と熱産生	9	卵巣周期、月経周期 妊娠、分娩、泌乳			
10	体温の生理的変動と調節	10	骨の構造、骨の組成と成長、骨形成と骨吸収			
11	腎の構造と機能、糸球体・ろ過	11	骨のカルシウム代謝の調節、骨年齢			
12	尿細管における再吸収、分泌	12	骨の病気①			
13	腎血流量、排尿	13	骨の病気②			
14	試験	14	試験			
15	解説	15	解説			
講義の進め方（指導方法）						
<p>教科書に沿って解説し、学生の理解度に応じた授業を努める。授業では学生が講義内容をかみ砕いて理解できるよう教科書に沿ったプリントを配布し、解説の後、過去問題の解説も行う。</p>						
成績評価（方法・基準）						
定期テストによる評価、出席、授業受講態度						
使用教材（教科書、教材等）						
教科書：生理学（南江堂）						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-09/1-13	運動学・基礎柔整Ⅲ	専門基礎	前期	1	2
講師名		実務経験・関連資格				
松房 利憲		作業療法士として身体障害領域の臨床経験を有する。大学で運動学を教授している。				
講義目的						
異常な状態が分かるためには、正常な状態を知らなければならない。人間は重力に逆らって運動する。力学、解剖学、生理学等と身体運動との関係を理解し、人間の身体運動を成立させている機構の基礎を学ぶ。						
講義内容						
下記、授業計画を参照						
前期授業計画				後期授業計画		
1	運動学とは 運動の表し方		1	足部の構造と運動		
2	力学の基礎 (1)		2	足部の筋の作用 脊柱の構造と運動		
3	力学の基礎 (2)		3	脊柱の構造と頸部の運動		
4	力学の基礎 (3) 筋収縮の様態		4	脊柱の構造と胸部の運動		
5	上肢帯の構造と運動		5	呼吸および腰部の運動		
6	肩関節の構造と運動		6	顔面・頭部の運動 姿勢		
7	肘関節の運動と筋の作用		7	歩行		
8	中間試験		8	中間試験		
9	手関節および手の構造		9	正常歩行と異常歩行		
10	手の運動と筋の作用		10	反射		
11	下肢帯の構造と股関節		11	姿勢反射		
12	股関節の運動と筋の作用		12	随意運動		
13	膝関節の構造と運動		13	運動発達		
14	膝関節の筋の作用、足関節と足部の構造		14	運動発達・運動学習		
15	期末試験		15	期末試験		
講義の進め方 (指導方法)						
教科書を中心に講義する 質問は授業中に随時受け付ける 毎回小テストを行う						
成績評価 (方法・基準)						
中間試験、期末試験の結果と小テストの結果をもとに判定する						
使用教材 (教科書、教材等)						
斉藤宏、鴨下博：運動学 改訂第3版，医歯薬出版						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-10	柔道 I	専門	前期	1	1
講師名		実務経験・関連資格				
五月女欣也						
講義目的						
1、柔道基本動作の修得 2、対人技能の習熟 3、試合の運営と審判法の理解 4、対人技術の指導力の向上						
講義内容						
1、柔道の歴史、特性、礼法 2、柔道の受身(前受身、横受身、前回り受身、後ろ受身) 3、柔道の投技(姿勢、組み方、進退、体捌き、崩し、掛け)・固技の基本動作 4、柔道の対人技術(支え釣り込み足、出足払い、膝車、小内刈、大内刈、大腰、釣り込み腰、払い腰、跳腰、体落とし、背負い投げ、袈裟固め、横四方固め、上四方固め、絞め技、関節技) 5、試合の在り方と運営 6、審判法について 7、活法						
前期授業計画				後期授業計画		
1	基礎知識と基本動作	1				
2	基本動作	2				
3	基本動作(受け身、姿勢と組み方)	3				
4	受け身(後ろ、横、前回り)くずしと体さばき	4				
5	足技(小内刈、大内刈、支え釣り込み足等)	5				
6	足技	6				
7	腰技(大腰、釣り込み腰等)	7				
8	手技(一本背負投、等)	8				
9	固め技(抑え技など)	9				
10	固め技(絞め技、関節技、活法)	10				
11	試合のルールと自由練習	11				
12	形(浮落)柔の形(突出、肩押)	12				
13	形(背負い投げ)(両手捕、肩廻)	13				
14	試験	14				
15	まとめ	15				
講義の進め方(指導方法)						
1、柔道基本動作の習熟の為の反復練習(受の習熟) 2、対人技能の向上の為の反復練習と対人技術 3、審判法の実践力の養成とルールの理解						
成績評価(方法・基準)						
口頭、礼法、受身、乱取、形(投の形、柔の形)の各々で100点を満点とし60点以上をもって合格点とする、又、技能の到達度、意欲、態度、知識、理解と素行不良で学生の本分に反する行為のあった者は不合格とする						
使用教材(教科書、教材等)						
教科書：柔道指導の手引き(文部省発行) 柔道練習のプログラム(成美堂出版)						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-11	基礎柔道整復学 I	専門	通年	1	2
講師名		実務経験・関連資格				
前川 民夫		接骨院業経営（昭和57年7月～平成16年3月） 前橋東洋医学専門学校教員（平成17年4月～現在に至る）				
講義目的						
柔道整復学の基礎知識、骨組織の損傷を理解する						
講義内容						
柔道整復学理論本（全国柔道整復学校協会監修）を使用しての講義						
前期授業計画				後期授業計画		
1	オリエンテーション		1	骨折の症状・骨折の局所症状・一般外傷症状 1		
2	人体に加わる力 p 12～		2	骨折の症状・骨折の局所症状・一般外傷症状 2		
3	損傷時に加わる力 ～p 15		3	骨折の固有症状 1		
4	各組織の損傷、骨の損傷 p 21～		4	骨折の固有症状 2		
5	骨の形態と機能		5	骨折の固有症状 3		
6	骨の構造 1		6	骨折の全身症状		
7	骨の構造 2		7	骨折の合併症 1		
8	骨損傷の概説・骨損傷に関わる力		8	骨折の合併症 2		
9	骨折の分類・骨の性状による分類		9	骨折の合併症 3		
10	骨折の分類・骨損傷の程度による分類		10	小児骨折、高齢者骨折 1		
11	骨折の分類・骨折線による分類、骨折部と創部との交通の有無による分類、外力の働きによる分類		11	小児骨折・高齢者骨折 2		
12	骨折の分類・外力の働き方による分類 1		12	骨折の癒合日数、骨折の治癒経過		
13	骨折の分類・外力の働き方による分類 2 骨折の部位による分類、受傷後の経過		13	骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子		
14	前期のまとめ		14	後期のまとめ		
15	期末試験		15			
講義の進め方（指導方法）						
教科書を中心に講義、中間に修得確認試験を行う 日程は前後することがある						
成績評価（方法・基準）						
中間試験・期末試験、授業態度で評価						
使用教材（教科書、教材等）						
柔道整復学・理論編 その他						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-12	基礎柔道整復学Ⅱ	専門	通年	1	2
講師名		実務経験・関連資格				
福田 ひとえ		柔道整復師				
講義目的						
柔道整復の基礎知識を習得する。						
講義内容						
関節及び関節構成組織の損傷について理解する。 診察および骨折・脱臼の整復法、軟部組織損傷の初期処置について理解する。						
前期授業計画				後期授業計画		
1	オリエンテーション		1	オリエンテーション		
2	関節の構造と機能		2	筋の構造と機能 筋損傷の概説		
3	関節損傷の概説 関節損傷の分類		3	筋損傷の分類		
4	損傷される組織 鑑別診断を要する類症		4	筋損傷の症状、治癒機序、予後		
5	靭帯、関節包の損傷		5	腱の構造と機能 腱損傷の概説 腱損傷の分類		
6	関節周辺を通過あるいは起始停止する筋・腱の損傷 関節軟骨損傷		6	腱損傷の分類、症状、治癒機序		
7	関節軟骨損傷		7	神経の構造と機能		
8	その他関節構成組織の損傷		8	神経損傷の概説 神経損傷の分類		
9	脱臼 1. 定義と概説 2. 発生頻度 3. 脱臼の分類		9	末梢神経損傷の症状 末梢神経損傷の治癒過程		
10	3. 脱臼の分類		10	診察時の注意点 診察手順の概説 診察の時期による分類		
11	4. 脱臼の症状		11	治療計画の作成 施術録の扱いと記載		
12	5. 脱臼の合併症 6. 脱臼の整復障害		12	徒手整復時の配慮 骨折の整復法		
13	7. 脱臼の経過と予後		13	脱臼の整復法 徒手整復後の確認と配慮 軟部組織損傷の初期処置		
14	期末試験		14	期末試験		
15	前期範囲確認		15	後期範囲確認		
講義の進め方 (指導方法)						
教科書の内容に沿って、必要に応じてプリント及びパワーポイント等を用いて解説指導する。						
成績評価 (方法・基準)						
定期試験による評価、授業態度						
使用教材 (教科書、教材等)						
教科書 (柔道整復学・理論編) 配布資料						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-14	基礎柔道整復学IV	専門	通年	1	2
講師名		実務経験・関連資格				
中澤 一紀		柔道整復師免許、専科教員				
講義目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復師に最も必要とされる柔道整復学の基礎知識の習得 ・柔道整復師が行うべき治療法（固定法）から外傷予防までについて基礎知識の習得 						
講義内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書（南江堂 全国柔道整復学校協会監修・柔道整復学理論編）を使用する ・前期：治療法の固定方法から運動療法 ・後期：治療法の物理療法から外傷予防 						
前期授業計画				後期授業計画		
1	レクリエーション	1	物理療法について ①			
2	固定法について ①	2	物理療法について ②			
3	固定法について ②	3	物理療法について ③			
4	固定法について ③	4	物理療法について ④			
5	固定法について ④	5	物理療法について ⑤			
6	固定具について	6	指導管理について ①			
7	後療法について ①	7	指導管理について ②			
8	後療法について ②	8	指導管理について ③			
9	後療法について ③	9	外傷予防について ①			
10	後療法について ④	10	外傷予防について ②			
11	運動療法について ①	11	外傷予防について ③			
12	運動療法について ②	12	外傷予防について ④			
13	運動療法について ③	13	外傷予防について ⑤			
14	前期の総復習	14	後期の総復習			
15	前期の期末試験	15	後期の期末試験			
講義の進め方（指導方法）						
<ul style="list-style-type: none"> ・固定法から外傷予防までの知識を指導する 						
成績評価（方法・基準）						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、出欠日数、実技の期末試験をおこない評価する 						
使用教材（教科書、教材等）						
<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学・実技編（第2版）、包帯固定学の教科書を使用する 						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-15	基礎柔道整復学V	専門	通年	1	2
講師名		実務経験・関連資格				
福田 ひとえ		柔道整復師				
講義目的						
<ul style="list-style-type: none"> 筋、骨格系について基礎的な知識を身に付ける。 6大関節の機能解剖を理解する。 						
講義内容						
<ul style="list-style-type: none"> 6大関節の構造、作用を理解出来る様解説する。 						
前期授業計画				後期授業計画		
1	骨格、筋についての概説		1	体幹と脊柱		
2	運動の面と軸 運動の方向		2	体幹と脊柱の運動		
3	関節の分類		3	骨盤、大腿骨		
4	上肢帯		4	股関節の構造		
5	上肢帯の運動、上肢帯の運動に働く筋		5	股関節の運動、股関節の運動に働く筋		
6	肩関節の構造		6	脛骨、腓骨、膝蓋骨		
7	肩関節の運動、肩関節の運動に働く筋		7	膝関節の構造		
8	中間試験		8	膝関節の運動、膝関節の運動に働く筋		
9	前腕（橈骨、尺骨）		9	中間試験		
10	肘関節の構造		10	足の骨、足関節の構造		
11	肘関節と前腕の運動、肘関節の運動に働く筋		11	足部の運動、足部の運動に働く筋		
12	手の骨、手関節の構造		12	医療面接		
13	手の運動、手の運動に働く筋：		13	医療面接		
14	期末試験		14	期末試験		
15	前期範囲確認		15	後期範囲確認		
講義の進め方（指導方法）						
解剖学、運動学の内容をふまえ、配布資料をもとに解説指導する。						
成績評価（方法・基準）						
定期試験による評価、授業態度						
使用教材（教科書、教材等）						
配布資料等						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-16	柔道整復実技 I	専門	通年	1	2
講師名		実務経験・関連資格				
高橋 知則		1979年5月より接骨院・整形外科に勤務し、1987年4月接骨院開業。2002年4月より本校講師となる。柔道整復師免許、柔道整復師専科教員				
講義目的						
<p>柔道整復術の実技を行うための理論。 各徒手による検査法の実技。 1年間を通し総論として、診断にいたる評価方法および施術方法の理解を深める。</p>						
講義内容						
<p>シーマー(正常)のよる各関節の骨格構造・形状 固定法実習アルフェンス・サモズプリント・プライソ・ギプス・ギプスシーネ 各関節の固定法の解説 筋の張力・形状・収縮様式・特性・筋作用の役割(主動・拮抗など) 徒手筋力検査の理解 MMT実習 ・夏期休暇宿題</p> <p>X線読影法(シーマー)〈骨折・脱臼〉各関節の形状アライメント・ 関節可動域測定法の理解・ROM実習 徒手検査・打診(腱反射・上肢・下肢)その他各徒手検査法(理論本付録) 物理療法の理解・接骨院見学</p>						
前期授業計画				後期授業計画		
1	骨・関節の理解	1	X線読影法(シーマー)			
2	骨・関節の理解	2	X線読影法(シーマー)			
3	固定法の理解	3	X線読影法(シーマー)			
4	固定法の実習	4	関節可動域測定法の理解			
5	固定法の実習	5	ROM実習			
6	固定法の実習	6	ROM実習			
7	固定法の理解	7	ROM実習の理解 評価 発表			
8	固定法の理解	8	ROM実習の理解 評価 発表			
9	筋の理解	9	徒手検査法			
10	筋の理解	10	徒手検査法 実技			
11	徒手筋力検査の理解(MMT)	11	徒手検査法 実技			
12	徒手筋力検査の実習(MMT)	12	物理療法 接骨院見学			
13	徒手筋力検査の実習(MMT)	13	物理療法の理解			
14	前期試験	14	後期試験			
15	回答	15	回答			
講義の進め方(指導方法)						
実習を通し疑問を感じるにより、学習意欲を高める。						
成績評価(方法・基準)						
欠席数、授業態度、前・後期試験および各再試験						
使用教材(教科書、教材等)						
教科書:柔道整復学[実技編](南江堂)骨格筋の形と触察法・ポケット解剖アトラス・図説 骨折と脱臼の管理 整形外科医のための神経学図説・図説整形外科診療の進め方・筋・感覚検査法・患者診断学						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	1-17	柔道整復実技Ⅱ	専門	通年	1	2
講師名		実務経験・関連資格				
横山 靖						
講義目的						
包帯法の基本を学び、各外傷および部位に対応しながら巻けるようにする						
講義内容						
各種包帯の名前、巻き方等を習得し実際互いに巻く練習を行う						
前期授業計画				後期授業計画		
1	トレーナーバックの中身の確認 持ち物に名前を書く		1	冠名包帯		
2	包帯学講義 包帯実技		2	冠名包帯		
3	包帯学講義 包帯実技		3	冠名包帯		
4	包帯学講義 包帯実技		4	冠名包帯		
5	包帯学講義 包帯実技		5	スポーツ外傷① 足関節		
6	包帯実技		6	スポーツ外傷② 膝関節		
7	包帯実技		7	スポーツ外傷③ 肩関節		
8	包帯実技		8	スポーツ外傷④ 肘関節		
9	包帯実技		9	足関節テーピング		
10	包帯実技		10	肩関節テーピング		
11	練習①		11	練習①		
12	練習②		12	練習②		
13	実技試験		13	実技試験		
14	実技試験		14	実技試験		
15	実技試験		15	実技試験		
講義の進め方 (指導方法)						
ゆっくりと実技を進め、包帯に慣れてもらう						
成績評価 (方法・基準)						
演題を出し、それぞれの実技試験を行う						
使用教材 (教科書、教材等)						
柔道整復学実技書、包帯固定学						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-01	解剖学Ⅲ	専門基礎	通年	2	2
講師名		実務経験・関連資格				
工藤 重治		解剖学および組織学の講義と実習 生物学、解剖生理学および病態生理学の講義				
講義目的						
男性および女性泌尿生殖器系、内分泌系と生体の恒常性維持、脳、神経系および感覚器官を通じて人体の構造と機能の有機的な関連性を総合的に理解させると共に、広視野に立って応用力に豊かな資質と素養を備えた人材を育成する。						
講義内容						
1 学年時の講義内容に引き続いて学習するもので、腎臓の構造と機能、男性および女性生殖器の構造と機能、受精の仕組み、内分泌系の構造と機能、神経系および脳の構造と機能、感覚器の構造と機能に重点をおいて解説する。						
前期授業計画				後期授業計画		
1	解剖見学実習テストと卵管および卵巣		1	心臓の運動と自律神経系、反射路		
2	卵子形成および排卵機構		2	上行性神経伝導路Ⅰ、皮膚感覚		
3	精子および卵子の形態、受精		3	上行性神経伝導路Ⅱ、深部感覚		
4	卵割および胚葉形成、胎盤形成		4	錐体路および錐体外路		
5	内分泌系の概要および諸機能		5	小脳の構造と機能		
6	下垂体の発生、下垂体前葉ホルモン		6	脳神経核と脳神経の起始部分布と役割		
7	下垂体後葉ホルモン、甲状腺、上皮小体		7	頸および腕神経叢、その支配筋と領域		
8	副腎の皮質および髄質ホルモン、松果体		8	腰神経叢、その支配筋と領域		
9	神経系の概要および神経組織		9	仙骨及び陰部の神経叢、その支配筋と領域		
10	神経細胞の構造、機能および種類		10	眼球の構造		
11	体性運動ニューロン		11	眼球の機能と視覚伝導路		
12	大脳の構造および機能局在		12	味覚とその伝導路		
13	脳幹および大脳辺縁系		13	聴覚器および平衡器の構造		
14	脊髄の構造と機能、自律神経系		14	聴覚器および平衡器の伝導路		
15	期末試験		15	期末試験		
講義の進め方 (指導方法)						
各事項の解説後には必ず学生に質問の有無を求め、その理解度を確認してから次の事項に講義内容を進める。要点の板書およびゆっくりした口述による筆記をさせる。 人体の構造と機能の有機的な関連を図表やプリントを用いて解説する。						
成績評価 (方法・基準)						
中間テストと期末テストから総合評価する。						
使用教材 (教科書、教材等)						
解剖学(医歯薬出版株式会社)、主としてネッター解剖学アトラス(南江堂)						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-02	生理学Ⅲ	専門基礎	通年	2	2
講師名		実務経験・関連資格				
静 毅人		内科医師 20 年				
講義目的						
前期は骨格・筋・神経・感覚器の連続処理である「運動」については解剖学、臨床学を含め、同領域のエキスパートとして柔道整復師に求められるより精密な知識を習得することを目的とする。						
講義内容						
生理学Ⅲでは前期は各器官系での働きに加え、生体機能を「制御する」内分泌、神経、筋、感覚を学習する。後期は問題演習を主とした講義をする。						
前期授業計画				後期授業計画		
1	神経の基本機能		1	感覚の生理学（1）		
2	神経系の機能（1）		2	感覚の生理学（2）		
3	神経系の機能（2）		3	感覚の生理学（3）		
4	神経系の機能（3）		4	感覚の生理学（4）		
5	神経系の機能（4）		5	生理学の基礎と血液		
6	神経系の機能（5）		6	循環と呼吸		
7	神経系の機能（6）		7	消化と吸収、栄養と代謝		
8	神経系の機能（7）		8	体温とその調節、尿の生成		
9	筋肉の機能（1）		9	内分泌系の機能		
10	筋肉の機能（2）		10	生殖		
11	筋肉の機能（3）		11	骨の生理		
12	筋肉の機能（4）		12	神経		
13	筋肉の機能（5）		13	筋肉		
14	試験まとめ		14	感覚		
15	期末試験		15	期末試験		
講義の進め方（指導方法）						
教科書に添った授業と板書及び問題演習						
成績評価（方法・基準）						
定期テストによる評価						
使用教材（教科書、教材等）						
教科書：生理学（南江堂）						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-03	病理学概論	専門基礎	通年	2	2
講師名		実務経験・関連資格				
伊藤 春雄						
講義目的						
<p>病理学は基礎医学の中心をなし、その内容は広範囲である。</p> <p>病理学概論では、広く疾病の定義、分類、原因と成立ち、特徴などを学び、医療従事者として適切な知識を身につけ、臨床で対応できる資質を備えた人材を育成する。</p>						
講義内容						
<p>本学の指定教科書「病理学概論」（全国柔道整復学校協会監修）の内容に準拠してすすめ、教科書に基づいた配布資料を活用し、教科書の内容を確実に理解し、国家試験に対応できる能力を身につけられるよう講義に努める。</p>						
前期授業計画				後期授業計画		
1	病理学の意義 病理学とは、方法：病理組織標本・染色法		1	炎症Ⅰ		
2	疾病の一般 疾病の意義と分類、症候の意義と分類		2	炎症の原因、炎症の形態学的変化		
3	病因Ⅰ 内因：素因と体質、遺伝、内分泌障害、免疫		3	炎症Ⅱ		
4	病因Ⅱ 外因：栄養障害、物理的外因		4	炎症の分類：滲出性炎、増殖性炎、特異性炎		
5	病因Ⅲ 外因：化学物質、病原微生物の病因作用		5	免疫異常・アレルギーⅠ		
6	退行性病変（代謝障害）Ⅰ 萎縮・変性（細胞質の変性、色素変性）		6	免疫のしくみ、免疫不全		
7	退行性病変（代謝障害）Ⅱ 変性（細胞間質の変性、通風、黄疸）		7	免疫異常・アレルギーⅡ		
8	退行性病変（代謝障害）Ⅲ 老化、壊死・アポトーシス、人の死		8	自己免疫異常、アレルギー		
9	進行性病変（病的増殖）Ⅰ 肥大・過形成、再生、化生		9	腫瘍Ⅰ		
10	進行性病変（病的増殖）Ⅱ 創傷治癒・異物の処理、移植		10	腫瘍の定義、肉眼的定義、腫瘍細胞・腫瘍マーカー		
11	循環障害Ⅰ 充血、うっ血、虚血、出血		11	腫瘍Ⅱ		
12	循環障害Ⅱ 血栓、塞栓、梗塞		12	腫瘍の組織構造、腫瘍の発生諸段階		
13	循環障害Ⅲ 浮腫、水腫		13	腫瘍Ⅲ		
14	期末試験		14	生体への影響、発生の原因、癌の診断と治療		
15	解説		15	腫瘍Ⅳ		
講義の進め方（指導方法）						
<p>柔道整復師国家試験の過去問題で使用されている専門用語、設問は本学の指定教科書「病理学概論」の内容に準拠しており、教科書を確実に理解することで国家試験に対応しうるものとする。そこで、教科書に沿って解説し、学生の理解度に応じた授業を努める。授業では学生が講義内容をかみ砕いて理解できるよう教科書に沿ったプリントを配布し、解説の後、過去問題の解説も行う。授業時間の後半では講義全体の要点をまとめる。あわせて組織標本の画像も重視して解説したい。</p>						
成績評価（方法・基準）						
<p>期末試験で評価。出席状況も考慮。</p>						
使用教材（教科書、教材等）						
<p>教科書：病理学概論（医歯薬出版株式会社）</p>						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-04/2-05	一般臨床医学 I / 外科学概論	専門基礎	後期/通年	2	1/2
講師名		実務経験・関連資格				
天野 出月						
講義目的						
内科・外科学の立場から、様々な疾患の病態・診断・治療を学習する基礎となる基本的な知識を身につける。臨床医学入門と内科診断学、外科学総論が中心となる。						
講義内容						
内科疾患の診断・治療を学ぶための基礎的な知識を講義する。外科学の基礎的知識を学ぶ。特に痲瘵の病態生理、その徴候をとらえる技術、臨床医学全体に必要な科学的な考え方を中心に具体的に述べる。						
前期授業計画				後期授業計画		
1	臨床医学入門、診察の意義、診察の進め方・問診	1	ショック・輸血 輸液			
2	視診 (TL)	2	消毒滅菌 手術・麻酔			
3	視診 (2)	3	疼痛管理・移植 出血・止血			
4	打診・聴診・触診	4	心肺蘇生法 代表的な臨床症状 (1)			
5	生命徴候	5	代表的な臨床症状 (2) 中間試験			
6	知覚検査・反射検査 (1)	6	中間試験解説 呼吸器 (1)			
7	知覚検査・反射検査 (2) / 臨床検査	7	呼吸器 (2) 呼吸器 (3)			
8	中間試験	8	呼吸器 (4) 循環器 (1)			
9	中間試験解説	9	循環器 (2) 循環器 (3)			
10	外科学概論・損傷	10	循環器 (4) 消化器 (5)			
11	創傷・熱傷	11	消化器 (1) 消化器 (2)			
12	感染症・腫瘍 (TL)	12	消化器 (3) 消化器 (4)			
13	腫瘍 (2)	13	消化器 (5) 消化器 (6)			
14	期末試験	14	代謝・栄養 (1) 代謝・栄養 (2)			
15	期末試験解説	15	期末試験 期末試験解説			
講義の進め方 (指導方法)						
教科書の内容を中心として講義を進める。できるだけ具体的な理解ができるように分かりやすく解説する。知識が相互によく関連するように、重要な内容は繰り返し確認する。また、重要度を明確にして解説をする。						
成績評価 (方法・基準)						
筆記試験 (国家試験問題類似の内容)						
使用教材 (教科書、教材等)						
教科書：一般臨床医学・外科学概論 (医歯薬出版) 教材：適宜プリントを配布する。						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-06	整形外科学	専門基礎	通年	2	2
講師名		実務経験・関連資格				
薬師寺 誠一郎 柳澤 雅弘						
講義目的						
運動器疾患、整形外科学の理解を深める 柔道整復師として必要な整形外科の知識を得る						
講義内容						
運動器・整形外科に関する総論・各論						
前期授業計画				後期授業計画		
1	整形外科の歴史と運動器の基礎知識 4月16日 (薬師寺)		1	神経・筋痙患、脊髄損傷 9月10日 (柳澤)		
2	整形外科診察法	4月16日 (薬師寺)	2	体幹の疾患・頭部 9月10日前澤		
3	整形外科検査法	5月14日 (柳澤)	3	鯛牟の疾患・胸部 9月17日 (薬師寺)		
4	整形外科的治療法	5月14日 (柳澤)	4	体幹の疾患・腰部 9月17日 (薬師寺)		
5	骨・関節損傷総論 (骨折) 5月21日 (薬師寺)		5	上肢の炭疵 肩① 10月8日 (柳澤)		
6	骨・関節損傷総論 (脱臼) 5月21日 (薬師寺)		6	上肢の疾患肩② 10月8日 (柳澤)		
7	スポーツ整形外科・リハビリテーション 6月11日 (柳澤)		7	上肢の炭迹 上腕・肘 10月15日 (薬師寺)		
8	感染症	6月11日 (柳澤)	8	上肢の炎妊 前腕・手 10月15日 (薬師寺)		
9	骨・軟部腫瘍	6月18日 (薬師寺)	9	上肢の疾患 手・手指 11月12日 (柳澤)		
10	リウマチ性疾患	6月18日 (薬師寺)	10	骨盤・下肢の変態・股関節 11月12日 (柳澤)		
11	骨系統炭疵	7月9日 (柳澤)	11	下肢の痲皰 大腿 11月19日 (薬師寺)		
12	骨端症	7月9日 (柳澤)	12	下肢の疾患膝関節 11月19日 (薬師寺)		
13	循環障害	7月16日 (薬師寺)	13	下肢の疾患 下腿 12月10日 (柳澤)		
14	絞扼性神経障害	7月16日 (薬師寺)	14	下肢の疾患 足関節・足 12月10日 (柳澤)		
15	期末試験 問題担当 (薬師寺)	7月30日	15	期末試験 問題担当 (柳澤) 12月17日		
講義の進め方 (指導方法)						
教科書に沿ってすすめます。毎回配布物を配りパワーポイントを使って説明します。						
成績評価 (方法・基準)						
期末試験						
使用教材 (教科書、教材等)						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-07	衛生学	専門基礎	前期	2	1
講師名		実務経験・関連資格				
大原 正						
講義目的						
<p>人の健康に関する専門家として衛生学の基本的哲学と知識を身につけ、社会に溶け込み、人々の生活に密着する中で、健康問題の解決をはかっていかなければならない。実践の学であることを知ってもらい、地域医療のオピニオンリーダーと育って戴きたい。</p>						
講義内容						
<p>教科書の各章に応じますが、特記すべきは、マスメディアを通じ、衛生学関連のニュースに敏感になって戴きたいことです。単に記載の学問でないことを実感して戴きたい。</p>						
前期授業計画				後期授業計画		
1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	1章	1			
2	健康の概念	2章	2			
3	健康の概念 人口統計、健康水準、健康指標		3			
4	疾病予防と健康管理	3章	4			
5	感染症の予防1	4章	5			
6	感染症の予防2		6			
7	感染症の予防3		7			
8	消毒1	5章	8			
9	消毒2		9			
10	消毒3		10			
11	環境保健1	6章	11			
12	環境保健2		12			
13	生活環境・食品衛生活動	7章	13			
14	まとめ		14			
15	期末試験		15			
講義の進め方（指導方法）						
<p>教科書を主体として、補足必要な場合（問題、ニュース等）は、資料を配布 国家試験過去問題を解説</p>						
成績評価（方法・基準）						
<p>本試験、再・追試験の点数が主体 授業態度、普段点も考慮されます。</p>						
使用教材（教科書、教材等）						
教科書：衛生学・公衆衛生学（南江堂）						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-08	公衆衛生学	専門基礎	後期	2	1
講師名		実務経験・関連資格				
大原 正						
講義目的						
ライフサイクルの中で、公衆衛生活動は欠く事のできない学問であることを認知して戴き、常に社会の個人および集団を対象とする、実践の学であることを理解して戴く。						
講義内容						
衛生行政活動など、具体例を挙げ、より身近に感じてもらうために、習熟度さ高める内容。						
前期授業計画				後期授業計画		
1		1	母子保健 1			8 章
2		2	母子保健 2			
3		3	学校保健 1			9 章
4		4	学校保健 2			
5		5	産業保健 1			10 章
6		6	産業保健 2			
7		7	成人高齢者保健 1			11 章
8		8	成人高齢者保健 2			
9		9	精神保健			12 章
10		10	地域保健と国際保健 1			13 章
11		11	地域保健と国際保健 2			
12		12	衛生行政と保健医療の制度			14 章
13		13	医療の倫理と安全の確保、試験説明			15 章
14		14	期末試験			
15		15	試験解説・疫学			
講義の進め方 (指導方法)						
教科書を主体 資料による補足説明 国家試験過去問題解説						
成績評価 (方法・基準)						
本試験、再・追試験の点数が主体 授業態度、普段点も考慮されます。						
使用教材 (教科書、教材等)						
教科書：衛生学・公衆衛生学 (南江堂)						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-09	柔道Ⅱ	専門基礎	後期	2	1
講師名		実務経験・関連資格				
五月女欣也						
講義目的						
<p>1、柔道の授業を通して筋力、瞬発力、調整力、持久力、などの体力を養い、これらの体力を発揮させる気力を育てる</p> <p>2、柔道の技術追及ではなく、柔道そのものの良さを味わせ、生活においても実践させるような態度を養うことをめざす</p> <p>3、体力の向上、柔道技能の習得、柔道に必要なマナーや態度の育成および練習の科学的な基礎知識の習得など</p>						
講義内容						
<p>柔道の特性に基づき、技能、社会的態度、健康、安全に関する態度の三つの観点を学習させる</p> <p>1、技能の内容は基本動作、对人的技能を、柔道のルールの上に最大限に発揮させる</p> <p>2、態度については自主的、計画的な練習態度と勝敗に対しての公正な態度だけでなく、思考的な態度と生活改善にまで結びつくような授業展開を目指す</p> <p>3、健康、安全については服装や練習場について清潔や安全を保つ態度、規制で禁じた技は絶対に使用しないなどの態度を強調していく</p>						
前期授業計画				後期授業計画		
1	一年時の基本動作	1				
2	前回り受け身と大腰	2				
3	送り足払いと大腰(横移動)	3				
4	払い腰と体落とし	4				
5	固め技(抑え技のいろいろ)	5				
6	固め技(抑え技のいろいろ)	6				
7	固め技(攻撃の仕方)	7				
8	小内刈りと約束乱取り	8				
9	支え釣り込み足、膝車と約束乱取り	9				
10	形(投の形と柔の形)自由練習	10				
11	形(投の形と柔の形)乱取り	11				
12	形(投の形と柔の形)約束乱取り	12				
13	形(投の形と柔の形)(試合のルール)	13				
14	試験	14				
15	まとめ	15				
講義の進め方(指導方法)						
<p>一年生で習得した基本技の程度を高めて習熟する共に、さらに投技の範囲を広めて手技、腰技、足技にわたる本数を加えて体得し立技における相手の変化に対応する攻防の技能を身につける。また、抑技では抑技全般にわたる本体の技と、崩れた技の定型(抑え方、のがれ方、返し方)を体得し、これらの抑技に習熟する。同時に這り方応じ方の練習も加え、抑技を中心とする固技攻防の実際の力をつけていく。</p>						
成績評価(方法・基準)						
<p>口頭、礼法、受身、乱取、形(投の形、柔の形)の各々で100点を満点とし60点以上をもって合格点とする、又、技能の到達度、意欲、態度、知識、理解と素行不良で学生の本分に反する行為のあった者は不合格とする</p>						
使用教材(教科書、教材等)						
<p>教科書：柔道指導の手引き(文部省発行) 柔道練習のプログラム(成美堂出版)</p>						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-10	臨床柔道整復学 I	専門	通年	2	2
講師名		実務経験・関連資格				
田代 裕		1990年4月より接骨院、病院勤務し、1996年10月父親の接骨院に勤務し現在院長。 柔道整復師免許、柔道整復専科教員				
講義目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復師の業務範囲内のもの範囲外のことを正しく理解する。 ・医師が行う医療行為と柔道整復師が行う施術行為を正しく理解する。 ・柔道整復師が行う応急処置を正しく理解する。 ・疾患と捻挫及び軟部組織損傷を正しく理解する。 						
講義内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書内容を理解する。 ・顔面、頭蓋骨、頭部外傷の応急処置法を学び、同時に医療機関で行われている治療方法を理解する。 ・顎関節脱臼の治療法（整復・固定・後療法）を正しく教授する。 ・肋骨骨折の治療法（整復・固定・後療法）を正しく教授する。 ・脊柱損傷を解剖学的見地より教授する。 ・疾患と捻挫の違いを正しく学び、医師と柔道整復師の医連携の重要性を教授する。 						
前期授業計画				後期授業計画		
1	シラバスの説明，顔面，頭蓋骨骨折		1	頸部疾患①〔機能解剖を含む〕		
2	頭部外傷，顎関節脱臼		2	頸部疾患②〔臨床徒手検査〕		
3	顎関節脱臼，顎関節症の分類		3	頸部疾患③〔X線、MRI、CT画像診断〕		
4	顎関節症の治療法，胸部外傷，肋骨骨折		4	頸部疾患④〔臨床例〕		
5	肋骨骨折の治療〔理論〕		5	腕神経叢損傷①〔解剖を含む〕		
6	肋骨骨折の治療〔実技〕		6	腕神経叢損傷②		
7	胸部外傷・胸部外傷		7	末梢神経障害①〔解剖を含む〕		
8	頸椎，胸椎の骨折		8	末梢神経障害②〔各種検査法〕		
9	脊柱の脱臼と骨折		9	腰部疾患①〔機能解剖を含む〕		
10	頸部捻挫，頸部疾患		10	腰部疾患②〔臨床徒手検査〕		
11	腕神経叢，筋・神経叢		11	腰部疾患③〔X線、MRI、CT画像診断〕		
12	腰部の軟部損傷		12	頸部、腰部の臨床例		
13	頸・腰		13	頸部、腰部の臨床例		
14	前期のまとめ		14	後期のまとめ		
15	試験		15	試験		
講義の進め方（指導方法）						
<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学、運動学をふまえて、教科書の内容を解説。 ・現代医療水準に沿う医療機関による治療、柔道整復師が業務範囲で出来ることを理解する為に、応急処置法、治療法等を映像を交えて指導する。 ・顎関節脱臼、胸骨骨折、臨床徒手検査法に関する実技を行い個々が理解出来るよう指導する。 ・頸部疾患、腰部疾患の鑑別方法を理解出来るように指導する。 						
成績評価（方法・基準）						
前期・後期試験、レポート等						
使用教材（教科書、教材等）						
教科書：柔道整復学(理論編)、参考書：解剖学書、運動学書、整形外科学書						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-11	臨床柔道整復学Ⅱ	専門	通年	2	2
講師名		実務経験・関連資格				
田代 裕						
講義目的						
各論の最重要範囲なので教科書にそって丁寧な講義を目的としたい。						
講義内容						
前期は鎖骨・肩甲骨・上腕骨骨折の机上で講義及びオリジナルの治療法（時間に余裕の場合） 後期は前腕骨・手指骨骨折の机上で講義及びオリジナルの治療法（時間に余裕の場合）						
前期授業計画				後期授業計画		
1	鎖骨骨折1	1	前腕骨骨折1			
2	鎖骨骨折2	2	前腕骨骨折2			
3	鎖骨骨折3	3	前腕骨骨折3			
4	鎖骨骨折4	4	前腕骨骨折4			
5	肩甲骨骨折1	5	前腕骨骨折5			
6	肩甲骨骨折2	6	手・指の骨折1			
7	肩甲骨骨折3	7	手・指の骨折2			
8	上腕骨骨折1	8	手・指の骨折3			
9	上腕骨骨折2	9	手・指の骨折4			
10	上腕骨骨折3	10	手・指の骨折5			
11	上腕骨骨折4	11	1年間のまとめ1			
12	上腕骨骨折5	12	1年間のまとめ2			
13	前期のまとめ1	13	1年間のまとめ3			
14	前期のまとめ2	14	1年間のまとめ4			
15	期末試験	15	期末試験			
講義の進め方（指導方法）						
国家試験は教科書が原則なので教科書に沿った講義が中心。 時間に余裕があれば認定実技審査についての講義もしたい。						
成績評価（方法・基準）						
前期及び後期とも学期の中間くらいに豆テスト的な事を実施して期末テストに100%比重を置くのではない方法を探りたい。 ハードルは高く80%理解で合格としたい						
使用教材（教科書、教材等）						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-12	臨床柔道整復学Ⅲ	専門	通年	2	2
講師名		実務経験・関連資格				
横山 靖						
講義目的						
日常診療で遭遇する機会の多い前腕骨の接骨を勉強する。						
講義内容						
機能解剖、症状、発生機序、その骨折の特徴を学習する。						
前期授業計画				後期授業計画		
1	胸鎖関節脱臼（理論）		1	手関節及び手指部の脱臼（理論）		
2	胸鎖関節脱臼（実技）		2	手関節及び手指部の脱臼（実技）		
3	肩鎖関節脱臼（理論）		3	第2中手指関節脱臼（理論・実技）		
4	肩鎖関節脱臼（実技）		4	指節間関節脱臼（理論・実技）		
5	肩関節脱臼（理論） 1		5	肩部の軟部組織損傷（理論） 1		
6	肩関節脱臼（理論） 2		6	肩部の軟部組織損傷（理論） 2		
7	肩関節脱臼（実技）		7	肩部の軟部組織損傷（実技）		
8	肘関節脱臼（理論） 1		8	上腕部肘部・前腕部の軟部組織損傷（理論）		
9	肘関節脱臼（理論） 2		9	上腕部肘部・前腕部の軟部組織損傷（実技） 1		
10	肘関節脱臼（実技）		10	上腕部肘部・前腕部の軟部組織損傷（実技） 2		
11	肘内障（理論・実技）		11	手関節部・手指部の軟部組織損傷（理論）		
12	実技の復習		12	手関節部・手指部の変形および腱損傷（理論）		
13	理論の復習		13	後期の復習		
14	前期試験		14	後期試験		
15	まとめ		15	まとめ		
講義の進め方（指導方法）						
グループワークで特徴を話し合う。外傷の特徴を覚える。その後、発生機序、症状						
成績評価（方法・基準）						
小テスト、期末テスト、出欠席						
使用教材（教科書、教材等）						
教科書						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-13	臨床柔道整復学Ⅳ	専門	通年	2	2
講師名		実務経験・関連資格				
前川 民夫		接骨院業経営（昭和57年7月～平成17年3月） 前橋東洋医学専門学校教師（平成17年4月～現在に至る）				
講義目的						
下肢の損傷（骨折・脱臼・軟部組織の損傷）を理解する						
講義内容						
柔道整復学理論編（全国柔道整復学校協会監修）を使用しての講義						
前期授業計画				後期授業計画		
1	オリエンテーション 骨盤部の損傷・骨盤骨骨折		1	膝関節部の損傷		
2	骨盤部の損傷・骨盤骨骨折		2	大腿骨遠位端部の骨折		
3	骨盤部の骨折・骨盤骨骨折		3	大腿骨近位端部の骨折		
4	股関節部の損傷・大腿骨近位部骨折 1		4	膝関節脱臼 1		
5	股関節部の損傷・大腿骨近位部骨折 2		5	膝関節脱臼 2		
6	股関節部の損傷・大腿骨近位端部骨折 1		6	膝蓋骨骨折		
7	大腿部の損傷・大腿骨骨幹部骨折		7	膝蓋骨脱臼		
8	股関節脱臼		8	膝関節部の軟部組織損傷		
9	股関節脱臼		9	膝関節部の軟部組織損傷		
10	股関節の軟部組織損傷		10	膝関節部の軟部組織損傷		
11	股関節の軟部組織損傷		11	膝関節部の軟部組織損傷		
12	大腿部の損傷・骨幹部骨折		12	膝関節部の軟部組織損傷		
13	大腿部の軟部組織損傷		13	膝関節部の軟部組織損傷		
14	前期のまとめ		14	後期のまとめ		
15	期末試験		15	期末試験		
講義の進め方（指導方法）						
教科書を中心に講義 日程は前後することがある						
成績評価（方法・基準）						
期末試験、中間試験、授業態度等により評価						
使用教材（教科書、教材等）						
柔道整復学理論本 その他						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-14	臨床柔道整復学V	専門	通年	2	2
講師名		実務経験・関連資格				
岡田 郁子		2005年4月より接骨院に勤務し、2006年4月より本校附属接骨院勤務を経て、2009年4月より本校講師となる。柔道整復師免許、柔道整復専科教員				
講義目的		下肢（下腿部、足関節部、足趾部）の機能解剖、骨折、脱臼、軟部組織損傷の理解を目的とする				
講義内容		教科書（柔道整復学理論編・実技編、整形外科学）、配布資料を用いて、理解を求める				
前期授業計画			後期授業計画			
1	下腿部の機能解剖		1	足根骨骨折		
2	下腿部の機能解剖 下腿骨・骨幹部骨折		2	足根骨骨折		
3	下腿骨・骨幹部骨折		3	足根骨骨折 足関節部の脱臼		
4	下腿骨・骨幹部骨折		4	足関節部の軟部組織損傷 (足関節捻挫)		
5	下腿骨果上骨折		5	足関節部の軟部組織損傷 (足関節捻挫の類症鑑別)		
6	下腿骨疲労骨折		6	足関節部の注意すべき疾患		
7	下腿部の軟部組織損傷 (アキレス腱炎、アキレス腱断裂)		7	足・足趾部の機能解剖		
8	下腿部の軟部組織損傷 (下腿三頭筋の肉ばなれ、スポーツ障害)		8	足根骨骨折		
9	下腿部の注意すべき疾患		9	足根骨骨折		
10	足関節部の機能解剖		10	中足骨骨折		
11	足関節部の機能解剖 下腿骨遠位端部骨折		11	趾骨骨折 足根部の脱臼		
12	下腿骨遠位端部骨折		12	中足趾節関節脱臼 指節間関節脱臼		
13	下腿骨遠位端部骨折		13	足・足趾部の軟部組織損傷		
14	下腿骨遠位端部骨折		14	足部の注意すべき疾患 総復習		
15	前期期末試験		15	後期期末試験		
講義の進め方（指導方法）		柔道整復学理論編・実技編、整形外科学の教科書を使用し、下肢（下腿部、足関節部、足・足趾部）の機能解剖、骨折、脱臼、軟部組織損傷についての知識を習得する				
成績評価（方法・基準）		期末試験の点数を基本とする 他、小テストも実施する				
使用教材（教科書、教材等）		柔道整復学理論編・実技編、整形外科学、配布資料				

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-15	柔道整復実技Ⅲ	専門	通年	2	2
講師名		実務経験・関連資格				
高橋 知則		1979年5月より接骨院・整形外科に勤務し、1987年4月接骨院開業。2002年4月より本校講師となる。柔道整復師免許、柔道整復師専科教員				
講義目的						
国家試験の合格だけでなく、実際の臨床における実践力を養う。						
講義内容						
前期は鎖骨から肘関節までの脱臼を、後期は手関節から指節間関節までの脱臼と上肢の軟部組織損傷変形について行う。						
前期授業計画				後期授業計画		
1	胸鎖関節脱臼（理論）		1	手関節及び手指部の脱臼（理論）		
2	胸鎖関節脱臼（実技）		2	手関節及び手指部の脱臼（実技）		
3	肩鎖関節脱臼（理論）		3	第2中手指関節脱臼（理論・実技）		
4	肩鎖関節脱臼（実技）		4	指節間関節脱臼（理論・実技）		
5	肩関節脱臼（理論）1		5	肩部の軟部組織損傷（理論）1		
6	肩関節脱臼（理論）2		6	肩部の軟部組織損傷（理論）2		
7	肩関節脱臼（実技）		7	肩部の軟部組織損傷（実技）		
8	肘関節脱臼（理論）1		8	上腕部肘部・前腕部の軟部組織損傷（理論）		
9	肘関節脱臼（理論）2		9	上腕部肘部・前腕部の軟部組織損傷（実技）1		
10	肘関節脱臼（実技）		10	上腕部肘部・前腕部の軟部組織損傷（実技）2		
11	肘内障（理論・実技）		11	手関節部・手指部の軟部組織損傷（理論）		
12	実技の復習		12	手関節部・手指部の変形および腱損傷（理論）		
13	理論の復習		13	後期の復習		
14	前期試験		14	後期試験		
15	まとめ		15	まとめ		
講義の進め方（指導方法）						
<ul style="list-style-type: none"> ・実技前の理論においては教科書を中心に大切なポイントを集中的に。 ・実技においては、グループ分けしてより実施に近い方法で行う。 						
成績評価（方法・基準）						
前後期試験の結果と授業態度、出席日数を総合して評価する。						
使用教材（教科書、教材等）						
教科書：柔道整復学（実技編・理論編）・配布する資料						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-16	柔道整復実技IV	専門	通年	2	2
講師名		実務経験・関連資格				
中澤 一紀		2009年4月より整形外科に勤務し、2011年4月本校附属接骨院院長。2018年4月より本校講師となる。柔道整復師免許・柔道整復専科教員				
講義目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復師の業務内容が認識できるような指導をする。 ・3年次の認定実技にむけてしっかりと実技、知識を反復練習し体得して頂くことを目標に努めたい。 						
講義内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・学校協会の包帯固定学と実技編学をベースに授業をおこなう 						
前期授業計画				後期授業計画		
1	巻軸帯の巻き方と注意事項		1	三角巾による提肘		
2	基本包帯法：環行帯～折転帯		2	厚紙副子の作成・固定		
3	基本包帯法：亀甲帯～麦穂帯		3	さらしによる固定		
4	冠名包帯法：デゾー包帯		4	金属副子の作成		
5	冠名包帯法：ヴェルポー包帯		5	金属副子による固定		
6	冠名包帯法：ジュール包帯		6	アルミ副子の作成・固定		
7	包帯固定学（部位別包帯法・頭部顔面部）		7	プライトンの作成・固定		
8	包帯固定学（部位別包帯法・肩部～前腕部）		8	レナサームの作成・固定		
9	包帯固定学（部位別包帯法・手関節部～手指部）		9	各固定材料を用いての固定 ①		
10	包帯固定学（部位別包帯法・股関節～膝関節部）		10	各固定材料を用いての固定 ②		
11	包帯固定学（部位別包帯法・下腿部～足関節部）		11	各固定材料を用いての固定 ③		
12	包帯固定学（部位別包帯法・肩部～前腕部）		12	各固定材料を用いての固定 ④		
13	包帯固定学（部位別包帯法・足指部～胸背部）		13	各固定材料を用いての固定 ⑤		
14	前期期末試験		14	後期期末試験		
15	前期期末試験		15	後期期末試験		
講義の進め方（指導方法）						
<ul style="list-style-type: none"> ・包帯固定学と柔道整復学・実技編をベースに講義し、実技をおこなう。 ・3年時の認定実技を意識できるように構成した授業する。 						
成績評価（方法・基準）						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、出欠日数、実技の期末試験をおこない評価する。 						
使用教材（教科書、教材等）						
<ul style="list-style-type: none"> ・包帯固定学、柔道整復学・実技編の教科書を使用する。 						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	2-17	各種療法	専門	後期	2	2
講師名		実務経験・関連資格				
永井 よりか		2006年4月より接骨院に勤務し、2011年4月より本校附属接骨院勤務を経て、2014年4月より本校講師となる。柔道整復師免許、柔道整復師専科教員				
講義目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床の現場での「施術」に必要なとされる物理療法の知識を身につける。 ・物理療法機器の特性や用途，取り扱いを修得する。 						
講義内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・物理療法の目的，分類，用法（取り扱い），効果，注意事項について。 ・物理療法が適応する疾患や疼痛の種類及びメカニズムについて。 						
前期授業計画				後期授業計画		
1		1	物理療法の目的，分類			
2		2	物理療法と疼痛			
3		3	物理療法の安全対策			
4		4	主要な物理療法 a. 電気療法			
5		5	主要な物理療法 a. 電気療法			
6		6	主要な物理療法 b. 温熱療法			
7		7	主要な物理療法 b. 温熱療法			
8		8	中間試験			
9		9	主要な物理療法 c. 光線療法			
10		10	主要な物理療法 d. 寒冷療法			
11		11	主要な物理療法 e. 牽引療法			
12		12	主要な物理療法 f. その他			
13		13	物理療法の実際			
14		14	物理療法のまとめ			
15		15	期末試験			
講義の進め方（指導方法）						
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書をベースに各種物理療法について学習する。 ・実際に物理療法機器を使用して実演及び体感させる。 						
成績評価（方法・基準）						
定期試験（中間・期末試験）を中心に評価する。						
使用教材（教科書、教材等）						
教科書（柔道整復学，リハビリテーション医学） プリント、パワーポイント（スライド）						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-01	高齢者・競技者の生理学	専門基礎	前期	3	2
講師名		実務経験・関連資格				
静 毅人		内科医師20年				
講義目的						
高齢者・競技者への施術に当たり、高齢者・競技者の特徴を理解した上で施術を行うことが求められることから、高齢者・競技者に関する身体機能維持・改善における運動訓練の影響などに理解することを目的とする。						
講義内容						
高齢者・競技者について身体の変化、身体機能維持・改善について講義を行う。						
前期授業計画				後期授業計画		
1	高齢者の生理学（1）		1			
2	高齢者の生理学（2）		2			
3	高齢者の生理学（3）		3			
4	高齢者の生理学（4）		4			
5	高齢者の生理学（5）		5			
6	高齢者の生理学（6）		6			
7	高齢者の生理学（7）		7			
8	競技者の生理学（1）		8			
9	競技者の生理学（2）		9			
10	競技者の生理学（3）		10			
11	競技者の生理学（4）		11			
12	競技者の生理学（5）		12			
13	競技者の生理学（6）		13			
14	競技者の生理学（7）		14			
15	期末試験		15			
講義の進め方（指導方法）						
教科書に添った授業と板書及び問題演習						
成績評価（方法・基準）						
定期テストによる評価						
使用教材（教科書、教材等）						
教科書（学校指定による）						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-02	一般臨床医学Ⅱ	専門基礎	通年	3	2
講師名		実務経験・関連資格				
天野 出月		2010年4月より医師として病院に勤務。2020年4月より本校講師となる。医師免許				
講義目的						
内科学の立場から、様々な疾患の病態・診断・治療を学習する基礎となる基本的な知識を身につける。臨床医学入門と内科診断学が中心となる。						
講義内容						
内科疾患の診断・治療を学ぶための基礎的な知識を講義する。 特に疾患の病態生理、その徴候をとらえる技術、臨床医学全体に必要な科学的な考え方を中心に具体的に述べる。						
前期授業計画			後期授業計画			
1	内分泌（1）	1	国家試験対策（問題演習）			
2	内分泌（2）	2	国家試験対策（問題演習）			
3	血液・造血器（1）	3	国家試験対策（問題演習）			
4	血液・造血器（2）	4	国家試験対策（問題演習）			
5	腎・泌尿器（1）	5	国家試験対策（問題演習）			
6	腎・泌尿器（2）	6	国家試験対策（問題演習）			
7	神経疾患（1）	7	国家試験対策（問題演習）			
8	神経疾患（2）	8	国家試験対策（問題演習）			
9	神経疾患（3）	9	国家試験対策（問題演習）			
10	感染症（1）	10	国家試験対策（問題演習）			
11	感染症（2）	11	国家試験対策（問題演習）			
12	リウマチ・アレルギー性疾患	12	国家試験対策（問題演習）			
13	環境因子・その他	13	国家試験対策（問題演習）			
14	期末試験	14	最終試験（一般臨床医学・外科学全範囲）			
15	期末試験解説	15	試験解説			
講義の進め方（指導方法）						
教科書の内容を中心として講義を進める。できるだけ具体的な理解ができるように分かりやすく解説する。知識が相互によく関連するように、重要な内容は繰り返し確認する。また、重要度を明確にして解説をする。						
成績評価（方法・基準）						
筆記試験（国家試験問題または国家試験問題類似の内容とする）						
使用教材（教科書、教材等）						
教科書：一般臨床医学（医歯薬出版） 教材：適宜プリントを配布する。						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-03	リハビリテーション医学	専門基礎	通年	3	2
講師名		実務経験・関連資格				
朝倉 智之						
講義目的						
リハビリテーションの理念と関連職種について理解する。柔道整復の隣接領域である理学療法、作業療法、言語療法の概要を把握する。リハビリテーションの対象疾患とその障害について理解する。						
講義内容						
リハビリテーションにおける障害の捉え方と介入に関する基礎的な学習の後、代表的な疾患について病態とともにリハビリテーション評価、治療の展開を解説する。						
前期授業計画			後期授業計画			
1	オリエンテーション リハビリテーションの理念	1	リハビリテーション治療技術③ 装具・義肢			
2	リハビリテーションの対象と障害者の実際 障害の階層とアプローチ	2	リハビリテーション治療技術④ 歩行補助具・車椅子・自助具			
3	リハビリテーション評価学① 運動学と機能解剖・身体所見	3	高齢者のリハビリテーション① 平均寿命と健康寿命・フレイル・医療制度・認知症			
4	リハビリテーション評価学② 小児運動発達・ADL・心理的評価	4	高齢者のリハビリテーション② 虐待・介護予防・地域リハビリテーション			
5	リハビリテーション評価学③ 認知症・電気生理学的検査	5	高齢者のリハビリテーション③ パーキンソン病			
6	リハビリテーション評価学④ 両像診断・運動失調	6	高齢者のリハビリテーション④ 脳卒中			
7	リハビリテーション障害学①	7	中間テスト			
8	中間テスト	8	運動器のリハビリテーション①			
9	リハビリテーション障害学②	9	運動器のリハビリテーション②			
10	リハビリテーション治療学①	10	運動器のリハビリテーション③			
11	リハビリテーション治療学②	11	運動器のリハビリテーション①			
12	リハビリテーション医学の関連職種	12	リハビリテーションと福祉			
13	リハビリテーション治療技術① 理学療法・作業療法	13	障害者スポーツ			
14	期末試験	14	期末試験			
15	リハビリテーション治療技術② 言語聴覚療法	15	(有)家試験問題解説			
講義の進め方（指導方法）						
教科書を中心に講義する。質問は授業中に随時受け付ける。 一部実技・体験の講義を含める。						
成績評価（方法・基準）						
中間試験の結果（40%）、期末試験の結果（40%）、普段の授業への参加姿勢（20%）をもとに判定する。						
使用教材・備考						
三上真弘編リハビリテーション医学，南江堂 主体的な授業への参加を期待する。提出は任意とするレポート課題を提示し、これも授業への参加姿勢として成績に加味する。						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-04	柔道整復術の適応	専門基礎	通年	3	2
講師名		実務経験・関連資格				
朝倉 智之						
講義目的						
柔道整復術が業務を遂行するに当たり、患者に対する医療安全の観点から、対象となる運動器疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し、柔道整復術を適切に実施できる能力を身に付けることを目的とする。						
講義内容						
スポーツのフィールドを中心とした救急医療の現場では、医師のみならず、柔道整復師、トレーナー、理学療法上等、多様な医療スタッフが初期対応をすることがある。この場では各職種がそれぞれの専門性と限界、さらには自身の力量を認識し、お互いに患者にとって最適な医療環境を作り上げる必要がある。 本講義では整形外科疾患を中心にその基礎知識を確認した上で、柔道整復師としての関わり方について講義する。						
前期授業計画				後期授業計画		
1	オリエンテーション 柔道整復術の適否を考える	1	外出血を伴う損傷			
2	損傷に類似した症状を示す疾患 A内臓疾患の投影を疑う疼痛	2	病的骨折及び脱臼			
3	損傷に類似した症状を示す疾患 B腰痛を伴う疾患	3	意識障害を伴う損傷①			
4	損傷に類似した症状を示す疾患 C化膿性の炎症など D軟部組織の圧迫損傷	4	意識障害を伴う損傷②			
5	血流障害を伴う損傷 1.動脈損傷	5	意識障害を伴う損傷③			
6	血流障害を伴う損傷 2.骨折	6	脊髄症状のある損傷①			
7	血流障害を伴う損傷 3.脱臼	7	中間テスト			
8	中間テスト	8	脊髄症状のある損傷②			
9	末梢神経損傷を伴う損傷 腕神経叢麻痺、骨折、脱臼	9	呼吸運動障害を伴う損傷			
10	脱臼骨折 1. 肩関節	10	内臓損傷の合併が疑われる損傷			
11	脱臼骨折 2. 肘関節	11	高エネルギー外傷①			
12	脱臼骨折 3. 股関節	12	高エネルギー外傷②			
13	脱臼骨折 4. 足関節	13	柔道整復師と関連医療職種			
14	期末試験	14	期末試験			
15	期末試験解説	15	期末試験問題解説			
講義の進め方（指導方法）						
適宜、解剖学、整形外科学、運動学等の関連内容の復習を踏まえ教科書を中心に講義する。 質問は授業中に随時受け付ける。一部実技・体験の講義を含める。						
成績評価（方法・基準）						
中間試験の結果（40%）、期末試験の結果（40%）、普段の授業への参加姿勢（20%）をもとに判定する。						
使用教材・備考						
公益社団法人全国柔道整復学校協会監修、有沢治著：医療の中の柔道整復、南江堂 主体的な授業への参加を期待する。提出は任意とするレポート課題を提示し、これも授業への参加姿勢として成績に加味する。						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-05	関係法規	専門基礎	通年	3	2
講師名		実務経験・関連資格				
田代 裕						
講義目的						
国家試験の合格だけでなく、実際の実務・運営における知識を養うことを目的とする。						
講義内容						
前期は、Ⅰ序論、Ⅱ柔道整復師方とその関連内容を行う。 後期は、Ⅲ関係法規と国家試験対策を行う。						
前期授業計画				後期授業計画		
1	序論 総則 免許	1	医療従事者の身分関係法	1		
2	柔道整復師試験	2	医療従事者の身分関係法	2		
3	業務	3	医療従事者の身分関係法	3		
4	施術所	4	医療法	1		
5	施術所・雑則	5	医療法	2		
6	罰則	6	薬事法規	1		
7	指定登録機関及び指定試験機関 1	7	薬事法規	2		
8	指定登録機関及び指定試験機関 2	8	衛生・社会福祉・社会保険関係法規			
9	附則	9	復習	1		
10	復習1	10	復習	2		
11	復習2	11	復習	3		
12	復習3	12	復習	4		
13	復習4	13	復習	5		
14	前期試験	14	後期試験			
15	まとめ	15	まとめ			
講義の進め方（指導方法）						
理論において教科書を中心とし大切なポイントを集中的に行う。						
成績評価（方法・基準）						
教科書：関係法規（医歯薬出版）、配布する資料等						
使用教材（教科書、教材等）						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-06	医学史	専門基礎	後期	3	1
講師名		実務経験・関連資格				
永井 よりか						
講義目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・医学（医療）の発展の歴史を通じて医療倫理を学ぶ。 ・柔道および柔道整復師の歴史を理解し、理想とする将来像を見つけ出す。 						
講義内容						
<ul style="list-style-type: none"> ・古代～現代までの医療の発展と、そこに携わってきた人々の心情や倫理観について。 ・柔道の歴史及び柔道整復師の誕生から現在に至るまでの道のりについて。 						
前期授業計画				後期授業計画		
1		1	医学のはじまり			
2		2	世界の医学史			
3		3	日本の医学史			
4		4	現在の医療と今後の医療			
5		5	柔道の歴史			
6		6	柔道整復術の沿革			
7		7	柔道整復師の沿革			
8		8	中間試験			
9		9	柔道整復師と柔道整復学①			
10		10	柔道整復師と柔道整復学②			
11		11	柔道整復師と柔道整復学③			
12		12	柔道整復師と柔道整復学④			
13		13	柔道整復師と柔道整復学⑤			
14		14	柔道整復師の倫理綱領と今後の心得			
15		15	期末試験			
講義の進め方（指導方法）						
<ul style="list-style-type: none"> ・医学の歴史まんがを用いて主要なポイントを押さえつつ、医療の発展の流れを把握していく。 ・主に柔道整復学の教科書を参考にして柔道や柔道整復師の歴史をまとめていく。 						
成績評価（方法・基準）						
定期試験（中間・期末試験）を中心に評価する。						
使用教材（教科書、教材等）						
教科書（柔道整復学）、プリント パワーポイント（スライド）						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-07	柔道Ⅲ	専門基礎	前期	3	1
講師名		実務経験・関連資格				
五月女欣也						
講義目的						
<p>個々の基本動作に熟達し、姿勢と組み方、崩しと体さばき、作りと掛け、受身についての高度な表現とその解説ができる。また各基本動作が総合され、投技に機能的に組み込まれて一如的に応用変化する実際を認識し、身につけ、発展させていく。</p>						
講義内容						
<p>基本動作の本作を常に堅持して技を正しく発達させると同時に個人差に即する応用変化をはかり技の開発、伸展に努める。特に得意技に定着した組み方、崩し方、作り方、掛け方の積極的な改善に打ち込み、独自の優れた技を築いていく。</p>						
前期授業計画				後期授業計画		
1	一本背負い投げ	1				
2	双手背負い投げ、釣り込み腰	2				
3	体落とし、払い腰	3				
4	送り足払い、大内刈り	4				
5	大外刈り、小外刈り	5				
6	内股、固め技の基本動作	6				
7	抑え技の入り方①②③、絞め技	7				
8	固め技(上体の決め方、脚の抜き方)固め技の試合	8				
9	形(投の形、柔の形)乱取り、自由練習	9				
10	形(投の形、柔の形)乱取り、自由練習	10				
11	形(投の形、柔の形)乱取り、自由練習	11				
12	形(投の形、柔の形)約束乱取り	12				
13	形(投の形、柔の形)約束乱取り	13				
14	試験	14				
15	まとめ	15				
講義の進め方(指導方法)						
<p>三年生の授業はさらに進んだ段階、内容的には、いくつかの技能を附加する程度で、攻防の切り換えの判断が早くなるという事に重点をおき、三年間のまとめという事で基本動作の正確さ、力強さなど常に留意し、相手の変化を見極めて早く正確な技を掛け合って乱取ができることを重要なねらいに進める。</p>						
成績評価(方法・基準)						
<p>口頭、技術(礼法、受身、乱取、形)の各々で100点を満点とし60点以上をもって合格点とする、又、技能の到達度、意欲、態度、知識、理解と素行不良で学生の本分に反する行為のあった者は不合格とする</p>						
使用教材(教科書、教材等)						
<p>教科書：柔道指導の手引き(文部省発行) 柔道練習のプログラム(成美堂出版)</p>						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-08	職業倫理と社会保障	専門基礎	前期	3	2
講師名		実務経験・関連資格				
前川 民夫		接骨院業開設（昭和57年7月～平成17年3月） 前橋東洋医学専門学校教員（平成17年4月～現在に至る）				
講義目的						
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理を理解する						
講義内容						
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理本を使用しての講義						
前期授業計画				後期授業計画		
1	社会保障とは		1			
2	社会保障制度とは		2			
3	医療保険制度とは 医療保険の目的と意義		3			
4	保険診療の概要		4			
5	医療保険財政の現状と課題		5			
6	診療報酬制度		6			
7	柔道整復師業務における療養費 療養制度の概要・療養費とは		7			
8	療養費の算定 療養費請求のケーススタディ		8			
9	職業倫理 医療従事者の職業倫理		9			
10	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への 対応		10			
11	柔道整復師の社会的責任と対応		11			
12	グループディスカッション事例		12			
13	医療における情報と責任		13			
14	まとめ		14			
15	期末試験		15			
講義の進め方（指導方法）						
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理本を中心に講義 日程は前後することがある						
成績評価（方法・基準）						
期末試験・中間試験・授業態度等により評価						
使用教材（教科書、教材等）						
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理本 その他						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-09	臨床柔道整復学VI	専門	通年	3	2
講師名		実務経験・関連資格				
福田 ひとえ		柔道整復師				
講義目的						
国家試験対策として、試験に必要な知識・技術を習得する。						
講義内容						
生理学における試験に出るポイントのまとめ、解法を体得する。						
前期授業計画				後期授業計画		
1	生理学 生理学の基礎		1	生理学 内分泌①		
2	生理学 血液の生理学		2	生理学 内分泌②		
3	生理学 体液		3	生理学 内分泌③		
4	生理学 循環①		4	生理学 生殖		
5	生理学 循環②		5	生理学 骨の生理学		
6	生理学 呼吸①		6	生理学 神経の基本的機能①		
7	生理学 呼吸②		7	生理学 神経の基本的機能②		
8	中間試験		8	生理学 神経系の機能		
9	生理学 消化と吸収①		9	中間試験		
10	生理学 消化と吸収②		10	生理学 筋肉の機能①		
11	生理学 栄養と代謝		11	生理学 筋肉の機能②		
12	生理学 尿の生成と排泄①		12	生理学 感覚の生理学		
13	生理学 尿の生成と排泄②		13	生理学 体温		
14	期末試験		14	期末試験		
15	前期範囲確認		15	後期範囲確認		
講義の進め方 (指導方法)						
出題率の高い項目を中心とした講義を行うとともに、暗記のポイントを説明。						
成績評価 (方法・基準)						
定期試験による評価、授業態度						
使用教材 (教科書、教材等)						
教科書 (生理学) 配布資料						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-10	臨床柔道整復学Ⅶ	専門	通年	3	2
講師名		実務経験・関連資格				
岡田 郁子		柔道整復師				
講義目的						
国家試験対策として、試験に必要な知識を習得する						
講義内容						
前期：解剖学の過去問を中心に教科書を基に学習する 後期：解剖学、運動学の過去問を中心に教科書を基に学習する						
前期授業計画				後期授業計画		
1	解剖学総論		1	循環器系		
2	骨格系		2	循環器系		
3	筋系		3	神経系		
4	筋系		4	神経系		
5	小テスト 消化器系		5	小テスト 感覚器系		
6	消化器系		6	感覚器系		
7	呼吸器系		7	体表解剖		
8	呼吸器系		8	小テスト 運動学（四肢と体幹の運動）		
9	泌尿器系		9	運動学（四肢と体幹の運動）		
10	泌尿器系		10	運動学（運動器の構造と機能）		
11	小テスト 生殖器系		11	運動学（運動発達）		
12	生殖器系		12	小テスト 運動学（運動の発現と制御）		
13	内分泌系		13	運動学（姿勢）		
14	内分泌系		14	運動学（歩行）		
15	前期期末試験		15	後期期末試験		
講義の進め方（指導方法）						
出題率の高い項目を中心に講義を進める						
成績評価（方法・基準）						
小テストおよび期末試験の点数を基本とする						
使用教材（教科書、教材等）						
解剖学、運動学、配布資料						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-11	柔道整復術適応の臨床的判定	専門	通年	3	2
講師名		実務経験・関連資格				
中澤 一紀		柔道整復師免許・専科教員				
講義目的						
・免許取得後に役立つように、患者さんに対して適切な判断ができるよう知識を習得する						
講義内容						
・施術に適応と医用画像の理解の教科書をベースに指導をおこなう						
前期授業計画				後期授業計画		
1	柔道整復術の適否を考える ①		1	脊髄症状のある損傷 ①		
2	柔道整復術の適否を考える ②		2	脊髄症状のある損傷 ②		
3	損傷に類似した症状を示す疾患 ①		3	呼吸運動障害を伴う損傷		
4	損傷に類似した症状を示す疾患 ②		4	内臓損傷の合併が疑われる損傷		
5	損傷に類似した症状を示す疾患 ③		5	高エネルギー外傷		
6	血流障害を伴う損傷		6	医用画像の理解 ①		
7	末梢神経損傷を伴う損傷 ①		7	医用画像の理解 ②		
8	末梢神経損傷を伴う損傷 ②		8	医用画像の理解 ③		
9	脱臼骨折		9	医用画像の理解 ④		
10	外出血を伴う損傷 ①		10	医用画像の理解 ⑤		
11	外出血を伴う損傷 ②		11	医用画像の理解 ⑥		
12	病的骨折および脱臼		12	医用画像の理解 ⑦		
13	意識障害を伴う損傷		13	医用画像の理解 ⑧		
14	前期の総復習		14	後期の総復習		
15	前期の期末試験		15	後期の期末試験		
講義の進め方（指導方法）						
・免許を取得した際に、患者さんに対しての適応（判断）ができるように指導する。						
成績評価（方法・基準）						
・授業態度、出欠日数、実技の期末試験をおこない評価する。						
使用教材（教科書、教材等）						
・施術の適応と医用画像の理解（南江堂）の教科書を使用する						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-12	柔道整復実技V	専門	通年	3	2
講師名		実務経験・関連資格				
横山 靖						
講義目的						
11月に行われる認定実試験対策						
講義内容						
上肢・下肢の軟部組織損傷を中心に進める						
前期授業計画				後期授業計画		
1	(説明) 各自課題を与え調べる	1	認定実技対策			
2	ギプス作成①	2	認定実技対策			
3	ギプス作成②	3	認定実技対策			
4	ギプス作成③	4	認定実技対策			
5	膝関節検査法	5	認定実技対策			
6	膝関節検査法	6	認定実技対策			
7	膝関節検査法	7	国試対策①			
8	大腿部損傷	8	国試対策②			
9	下腿部損傷	9	国試対策③			
10	キャストライト作成①	10	国試対策④			
11	キャストライト作成②	11	国試対策⑤			
12	キャストライト作成③	12	国試対策⑥			
13	復習	13	復習			
14	実技試験①	14	実技試験①'			
15	実F支試験②	15	実技試験②'			
講義の進め方(指導方法)						
認定実技用の資料を作り、その後実際に実技を行う						
成績評価(方法・基準)						
実波試験、事業態嵐及び出欠席						
使用教材(教科書、教材等)						
柔道整復学実技書等						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-13	柔道整復実技VI	専門	通年	3	2
講師名		実務経験・関連資格				
横山 靖						
講義目的						
11月に行われる認定実試験対策						
講義内容						
上肢・下肢の軟部組織損傷を中心に進める						
前期授業計画				後期授業計画		
1	各自課題を与え調べる		1	認定実技対策		
2	課題検討		2	認定実技対策		
3	腰板断裂		3	認定実技対策		
4	上腕二頭筋長腱断裂		4	認定実技対策		
5	膝関節検査法		5	認定実技対策		
6	膝関節検査法		6	認定実技対策		
7	膝関節検査法		7	国試対策①		
8	大腿部損傷		8	国試対策②		
9	下腿部損傷		9	国試対策③		
10	キャストライト作成		10	国試対策④		
11	キャストライト作成		11	回試対策⑤		
12	キャストライト作成		12	国試対策⑥		
13	復習		13	復習		
14	実技試験①		14	実技試験①'		
15	実技試験②		15	実技試験②'		
講義の進め方(指導方法)						
認定実技用の資料を作り、その後実際に実技を行う						
成績評価(方法・基準)						
実技試験、事業態度及び出欠席						
使用教材(教科書、教材等)						
柔道整復学実技教科書等						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-14	柔道整復実技Ⅶ	専門	通年	3	2
講師名		実務経験・関連資格				
岡田 郁子						
講義目的						
国家試験対策として、試験に必要な知識を習得する						
講義内容						
前期：認定実技試験の出題項目を重点的に学習する 後期：柔道整復理論（総論）、前期の復習を中心に学習する						
前期授業計画				後期授業計画		
1	鎖骨骨折 上腕骨外科頸骨折	1	骨の損傷			
2	上腕骨骨幹部骨折 コーレス骨折	2	骨の損傷 関節の損傷（捻挫、脱臼）			
3	第5指中手骨頸部骨折 手第2指PIP関節背側脱臼	3	筋の損傷 腱の損傷			
4	小テスト 解答解説、復習	4	小テスト 解答解説、復習			
5	肩鎖関節上方脱臼 肩関節前方脱臼	5	末梢神経の損傷 診察			
6	肘関節後方脱臼 肘内障	6	整復法 固定法			
7	肋骨骨折 肩胛板損傷	7	後療法			
8	小テスト 解答解説、復習	8	小テスト 解答解説、復習			
9	上腕二頭筋長頭腱損傷 下腿骨骨幹部骨折	9	指導管理 外傷予防			
10	下腿三頭筋損傷 ハムストリングス損傷	10	前期の復習			
11	大腿四頭筋打撲 膝関節側副靭帯損傷	11	前期の復習			
12	小テスト 解答解説、復習	12	小テスト 解答解説			
13	膝関節半月板損傷 アキレス腱断裂	13	前期の復習			
14	足関節外側靭帯損傷	14	後期の復習			
15	前期期末試験	15	後期期末試験			
講義の進め方（指導方法）						
出題率の高い項目を中心に講義を進める 認定実技試験対策では、実技本を中心に講義する						
成績評価（方法・基準）						
小テストおよび期末試験の点数を基本とする						
使用教材（教科書、教材等）						
柔道整復学理論編・実技編、配布資料						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-15	柔道整復実技Ⅷ	専門	前期	3	1
講師名		実務経験・関連資格				
中澤 一紀		柔道整復師免許・専科教員				
講義目的						
・認定実技審査に向かったの知識や整復法や固定法を学ぶ						
講義内容						
・包帯固定学、柔道整復学・実技編をベースにおこなう						
前期授業計画				後期授業計画		
1	問診・視診・触診について		1			
2	コーレス骨折について		2			
3	コーレス骨折について		3			
4	肘関節脱臼について		4			
5	肘関節脱臼について		5			
6	肩関節脱臼について		6			
7	肩関節脱臼について		7			
8	第2指背側脱臼について		8			
9	第2指背側脱臼について		9			
10	第5中手骨頸部骨折について		10			
11	第5中手骨頸部骨折について		11			
12	アキレス腱断裂について		12			
13	アキレス腱断裂について		13			
14	前期の期末試験		14			
15	前期の期末試験		15			
講義の進め方（指導方法）						
・認定実技審査を意識した授業内容をおこなう						
成績評価（方法・基準）						
・授業態度、出欠日数、実技の期末試験をおこない評価する						
使用教材（教科書、教材等）						
・柔道整復学・実技編（第2版）、包帯固定学の教科書を使用する						

2020	3-16	外傷予防	専門	通年	3	2
講師名		実務経験・関連資格				
福田 ひとえ		柔道整復師				
講義目的		競技者および高齢者に対する具体的な外傷予防の手法を身に付ける。				
講義内容		競技者や高齢者のさまざまな外傷発生の要因を理解し、外傷予防に対する知識と技術を習得する。				
前期授業計画			後期授業計画			
1	オリエンテーション	1	オリエンテーション			
2	運動が生体に与える影響	2	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際①			
3	運動とエネルギー代謝	3	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際②			
4	運動と骨・筋肉	4	外傷予防とその実際①			
5	運動と呼吸	5	外傷予防とその実際②			
6	運動と循環	6	成長期の外傷予防			
7	運動とホルモン	7	高齢者の外傷予防			
8	運動とホルモン	8	発達と老化の理解			
9	競技者の運動生理学的特徴	9	介護予防と生活機能の向上			
10	競技者の外傷予防の概要	10	ロコモティブシンドローム			
11	外傷の発生要因	11	機能訓練指導員と機能訓練			
12	外傷の予防対策	12	機能訓練で提供する運動と要点①			
13	メディカルチェック（評価と測定）	13	機能訓練で提供する運動と要点②			
14	期末試験	14	期末試験			
15	前期まとめ	15	後期まとめ			
講義の進め方（指導方法）		教科書の内容に沿って、必要に応じてプリント及びパワーポイント等を用いて解説・実技指導を行う。				
成績評価（方法・基準）		定期試験による評価、授業態度				
使用教材（教科書、教材等）		教科書（競技者の外傷予防） 配布資料				

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-17A	臨床実習 A	専門	後期	3	
講師名		実務経験・関連資格				
中澤 一紀		柔道整復師免許・専科教員				
講義目的						
・ 临床上、必要とされる実技の能力や知識を習得する						
講義内容						
・ 包帯固定学と柔整復学・実技編学の教科書をベースに指導をおこなう						
前期授業計画				後期授業計画		
1		1	臨床実習（接骨院にて）			
2		2	臨床実習（接骨院にて）			
3		3	臨床実習（接骨院にて）			
4		4	臨床実習（接骨院にて）			
5		5	臨床実習（接骨院にて）			
6		6	臨床実習（接骨院にて）			
7		7	臨床実習（接骨院にて）			
8		8	臨床実習（接骨院にて）			
9		9	臨床実習（接骨院にて）			
10		10	臨床実習（接骨院にて）			
11		11	臨床実習（接骨院にて）			
12		12	臨床実習（接骨院にて）			
13		13	臨床実習（接骨院にて）			
14		14	後期の期末試験			
15		15	後期の期末試験			
講義の進め方（指導方法）						
・ 柔道整復師として正しい施術内容や方法などを指導する ・ 将来開業するにあたっての適切な指導をおこなう						
成績評価（方法・基準）						
・ 授業態度、出欠日数、実技の期末試験をおこない評価する						
使用教材（教科書、教材等）						
・ 柔道整復学・実技編（第2版）、包帯固定学の教科書を使用する						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-17B	臨床実習B	専門	後期	3	
講師名		実務経験・関連資格				
中澤 一紀		柔道整復師免許・専科教員				
講義目的						
・ 临床上、必要とされる実技の能力や知識を習得する						
講義内容						
・ 包帯固定学と柔整復学・実技編学の教科書をベースに指導をおこなう						
前期授業計画				後期授業計画		
1		1	臨床実習（接骨院にて）			
2		2	臨床実習（接骨院にて）			
3		3	臨床実習（接骨院にて）			
4		4	臨床実習（接骨院にて）			
5		5	臨床実習（接骨院にて）			
6		6	臨床実習（接骨院にて）			
7		7	臨床実習（接骨院にて）			
8		8	臨床実習（接骨院にて）			
9		9	臨床実習（接骨院にて）			
10		10	臨床実習（接骨院にて）			
11		11	臨床実習（接骨院にて）			
12		12	臨床実習（接骨院にて）			
13		13	臨床実習（接骨院にて）			
14		14	後期の期末試験			
15		15	後期の期末試験			
講義の進め方（指導方法）						
・ 免許取得後、適切な施術内容や方法などを指導する						
成績評価（方法・基準）						
・ 授業態度、出欠日数、実技の期末試験をおこない評価する。						
使用教材（教科書、教材等）						
・ 柔道整復学・実技編（第2版）、包帯固定学の教科書を使用する						

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2020	3-17C	臨床実習C	専門	前期	3	
講師名		実務経験・関連資格				
永井 よりか		柔道整復師				
講義目的						
<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習の意義を共有する。 臨床実習における必要知識を身につける。 						
講義内容						
<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習の概要，必要知識，注意点について。 臨床実習で対応する機会の多い疾患の特徴や鑑別疾患について。 						
前期授業計画				後期授業計画		
1			1	臨床実習の概説		
2			2	臨床実習における必要知識 ①診察，検査法		
3			3	臨床実習における必要知識 ②評価，治療法		
4			4	臨床実習における必要知識 ③運動器疾患（体幹）		
5			5	臨床実習における必要知識 ④運動器疾患（上肢）		
6			6	臨床実習における必要知識 ⑤運動器疾患（下肢）		
7			7	臨床実習における必要知識 ⑥運動器疾患（神経系）		
8			8	中間試験		
9			9	外傷性運動器疾患との鑑別疾患 ①骨腫瘍		
10			10	外傷性運動器疾患との鑑別疾患 ②骨系統疾患		
11			11	外傷性運動器疾患との鑑別疾患 ③非感染性疾患		
12			12	外傷性運動器疾患との鑑別疾患 ④感染性疾患		
13			13	外傷性運動器疾患との鑑別疾患 ⑤神経・筋疾患		
14			14	外傷性運動器疾患との鑑別疾患 ⑥その他		
15			15	期末試験		
講義の進め方（指導方法）						
<ul style="list-style-type: none"> 必要事項をスライドやプリントにまとめて共有していく。 重要なポイントについては各々で整理し、他者とも共有し確認していく。（グループワーク） 						
成績評価（方法・基準）						
定期試験（中間・期末試験）を中心に評価する。						
使用教材（教科書、教材等）						
臨床実習ガイドライン、教科書（柔道整復学，整形外科学，リハビリテーション医学） プリント、パワーポイント（スライド）						

